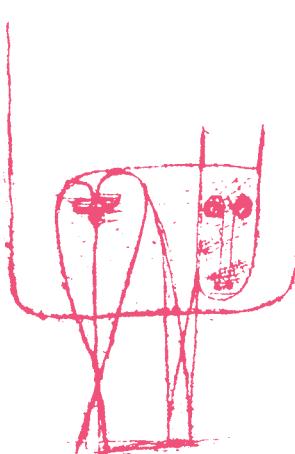


神奈川県立近代美術館

年2024報

ANNUAL REPORT



神奈川県立近代美術館

年2024報

ANNUAL REPORT

目次

〔凡例〕

- ・本年報に記載する人物は、原則として敬称略とする。
- ・各学芸員の役職は「職員一覧」(p.58)を参照のこと。

あいさつ 3

展覧会活動

2024(令和6)年度展覧会 会期・観覧者数一覧 4

葉山館 5

鎌倉別館 12

教育普及活動

2024(令和6)年度 教育普及事業一覧 19

団体来館受入状況、「Museum Box 宝箱」貸出、スタンプラリー、文化財保護ポスター展示 24

美術図書室 25

美術館紹介・広報・掲載実績等 26

刊行物 27

2024(令和6)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業 28

——神奈川県立近代美術館の竹を編む [太田原笙子] 28

作品蒐集管理活動

2024(令和6)年度 購入・寄贈・寄託状況 30

2024(令和6)年度 新収蔵作品一覧 30

館外貸出作品一覧 36

2024(令和6)年度 館外画像貸出・作品資料特別閲覧状況 36

修復報告 37

2024(令和6)年度 修復作品一覧 43

美術館資料の保存と活用 [長門佐季] 44

調査研究活動

調査・研究報告

江見絹子、1950年代後半の創作について

——有機的形態を描く絵画と幾何学的抽象絵画の展開 [糸山昌夫] 45

調査研究の発表・執筆等 51

外部資金の活用 51

講師派遣・外部委員等就任 52

運営・管理報告

概況(沿革・所掌事務・施設の状況) 53

PFI事業の概要 53

収入・支出の状況 53

葉山館改修工事報告 [橋口由依] 54

関係法規 56

組織 57

職員一覧 58

あいさつ

2024 年度の年報を刊行いたします。

当館の年報は、葉山館、鎌倉別館の 2 館体制のもとで実施された「展覧会活動」「教育普及活動」「作品蒐集管理活動」など美術館活動の記録を報告するとともに、「調査研究活動」として日頃行われている調査研究の成果となる論考を掲載する紀要としての側面を持っています。

2024 年度の展覧会活動については、葉山館では企画展として「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」、「石田尚志 絵と窓の間」、「栗林隆 Roots」の 3 本と、コレクション展として「斎藤義重という起点—世界と交差する美術家たち」を開催いたしました。鎌倉別館では、開館 40 周年を記念し、「てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」、「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』／特集：スペインにいった現代日本版画展」、「たいせつなもの I 新収蔵作品展 2015～2019」、さらに企画展として「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」を開催いたしました。

なお、10 月から 2025 年 3 月末まで葉山館では展示室の改修工事等を行い、展示室の利用を休止しましたが、その期間を乗り切るためにさまざまな工夫を凝らしました。改修工事期間中も美術図書室は開室し、エントランスロビー、前庭、中庭、講堂といった非展示空間を活用して「栗林隆」展を開催しました。エントランスロビーを突き抜ける木製の「タンカー」の設置はその象徴であり、普段展示の場として使用しない空間を活かすことで、美術館活動の継続を図りました。また、改修工事前の「石田尚志 絵と窓の間」展では、改修によって取り壊される展示室 3b の壁一面を用いた公開制作を石田氏が行い、それにより《夏の海の部屋》という新たな映像作品が生み出されました。

こうした空間活用の工夫に加え、教育普及活動として、関東学院大学、葉山芸術祭実行委員会との共同主催による「神奈川県立近代美術館の竹を編む」プロジェクトを実施するなど、地域と連携した活動にも注力いたしました。加えて鎌倉別館では、開館 40 周年を記念し、社会教育施設公開講座にて同館にゆかりのある講師を迎えた連続講演会を行い、地域の歴史文化と別館のこれまでの歩みへの理解を深めていただくよう取り組みました。

作品蒐集管理活動では、本年度は新たに 57 件の作品と 57 件の資料が収蔵品に加わりました。美術館資料については、2023 年 4 月に施行された博物館法改正により、デジタル・アーカイブの整備と活用が重要な責務と位置づけられました。収蔵品の公開と研究を促進するため、この分野での取り組みを今後一層強化してまいります。

多様化する社会において、美術館はより開かれた存在であることが望まれています。芸術との出会いは人々の暮らしをより豊かなものにしてくれると確信しています。今後も、神奈川県という土地の特性を踏まえつつ、質の高い芸術を広い視野を持って世界に向けて発信し、誰もが気軽に訪れ、さまざまな楽しみ方ができる場を提供すべく、努めてまいります。

最後になりましたが、日頃より当館の活動にご理解とご協力を賜っている関係各位に、心より御礼申し上げます。

2025年12月

神奈川県立近代美術館長
長門佐季

展覧会活動

2024(令和6)年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料	観覧者数 [人]			合計	巡回先	
					有料	無料	うち 中学生 以下			
葉山館企画展	芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅虎雄	[2/10] 4/1 4/7	6日 (51日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	684 (4,789)	506 (1,981)	43 (267)	1,190 (6,770)	久留米市美術館
	吉田克朗展 ものに、風景に、世界に触れる	4/20 6/30	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	4,426	2,300	228	6,726	埼玉県立近代美術館
	石田尚志 絵と窓の間	7/13 9/28	71日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	9,286	2,841	766	12,127	アーツ前橋 高松市美術館
	栗林隆 Roots	12/14 3/2	65日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	4,342	1,646	267	5,988	
小計			206日		18,738	7,293	1,304	26,031		
葉山館コレクション展	コレクション展 木茂(もくも)先生と負翼童子	[2/10] 4/1 4/7	6日 (51日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	710 (4,997)	506 (1,981)	43 (267)	1,216 (6,978)	
	コレクション展 斎藤義重という起点 —世界と交差する美術家たち	4/20 6/30	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	4,921	2,300	228	7,221	
	小計			70日		5,631	2,806	271	8,437	
鎌倉別館	小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ	[2/23] 4/1 5/6	26日 (59日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	1,010 (1,892)	479 (830)	82 (237)	1,489 (2,722)	
	鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復	5/18 7/28	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	2,681	1,476	231	4,157	
	コレクション展 ゴヤ版画 『気まぐれ』『戦争の慘禍』	8/10 10/20	66日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	3,224	835	257	4,059	
	コレクション展 たいせつなもの I 新収蔵作品展2015～2019	11/2 1/19	65日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	2,167	1,425	174	3,592	
	岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑	2/1 3/31 [4/13]	51日 (63日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	1,418 (1,879)	741 (1,136)	256 (275)	2,159 (3,015)	
	小計			271日		10,500	4,956	1,000	15,456	
合 計 (11 展覧会)					34,869	15,055	2,575	49,924		

※「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅虎雄」及び「木茂(もくも)先生と負翼童子」の会期は2024.2/10～4/7。

※「小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ」の会期は2024.2/23～5/6。

3/31以前の日数、観覧者数については昨年度の年報を参照。()内は昨年度と今年度の合計の日数と観覧者数。

※「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」の会期は2025.2/1～4/13。

※各展覧会ページの「関連記事」において、ウェブ媒体は公開日を記載。

葉山館

792

吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる

Yoshida Katsuro: Touching Things, Landscapes, and the World

多摩美術大学で斎藤義重に学んだ吉田克朗（1943–1999）は、1969年から物体を組み合わせ、その特性が自然に表出されるような作品を制作し始める。このような作風を示す動向は後に「もの派」と称され、国際的に注目を浴びることになるが、吉田はその先鞭をつけた作家のひとりであった。やがて「もの派」の作風から離れた吉田は、1970年代から転写などの実験的な手法を試みながら絵画表現を模索し、1980年代前半には風景や人体を抽象化して描く〈かけろう〉シリーズ、1980年代後半からは、粉末黒鉛を手指でこすりつけて有機的な形象を描く〈触〉シリーズを発表し注目を集めた。本展は、吉田克朗の全貌に迫る初めての回顧展として、絵画の代表作に加え、「もの派」時代の作品を再現した参考作品や、作品プランやコンセプトを綴った制作ノートなどの資料を紹介した。

主 催：神奈川県立近代美術館、東京新聞

出 品 協 力：The Estate of Katsuro Yoshida、東京都現代美術館

助 成：公益財団法人 ポーラ美術振興財団

会 期：4月20日（土）～6月30日（日）

休 館 日：月曜日（4月29日、5月6日を除く）

開 催 日 数：64日

出品総点数：作品159点、参考作品5点、資料20点

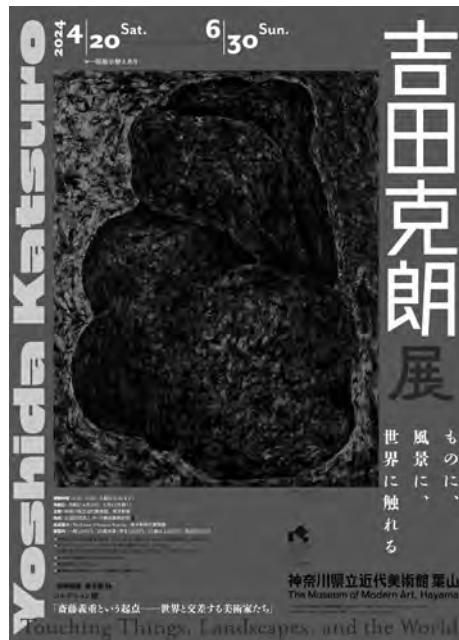
総観覧者数：6,726人

担当学芸員：西澤晴美、菊川亜騎 広報：ハリントン角皆萌仁香

巡 回 先：埼玉県立近代美術館

関連企画

- 1) 開会記念トーク「吉田克朗を語る」 4月20日（土）講師：小清水漸（彫刻家）
- 2) 座談会—吉田克朗と「もの派」 6月9日（日）講師：平野到（埼玉県立近代美術館）、山本雅美（奈良県立美術館）、森啓輔（千葉市美術館）、司会：西澤晴美
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク 5月11日（土）、6月16日（日）
- 4) ワークショップ「キミも克朗！葉っぱをうつしとろう！」 5月18日（土）



会場風景 1

撮影：加藤 健



会場風景 2

撮影：加藤 健

カタログ

サ イ ズ：25.7×18.2cm、356ページ、販売価格：3,960円(税込)
ISBN:978-4-8010-0804-5
執 筆：水沢 勉、森 啓輔、平野 到、山本雅美、西澤晴美、菊川亜騎、
菊地真央
翻 訳：キャサリン・リーランド、クリストファー・スティヴァンス、パ
メラ・ミキ・アソシエイツ
編 集：神奈川県立近代美術館 西澤晴美、菊川亜騎、山田 龍(インター
ン)、埼玉県立近代美術館 平野 到、菊地真央
水声社 飛田陽子、関根慶
校 閲：亀山裕亮
ブックデザイン：宗利淳一ブックデザイン 宗利淳一、鈴木朋子
発 行 者：鈴木 宏
発 行 所：株式会社水声社
印刷・製本：精興社

目次

ごあいさつ
間(あい)に触れる 吉田克朗の現在(いま) (水沢 勉)
「もの派」としての吉田克朗—「Cut-off」における分離／接続の思惑(森 啓輔)
距離と隔たりをめぐって—吉田克朗試論 (平野 到)

図版

1章 ものと風景と 1969-1973
2章 絵画への模索—うつすことから 1974-1981
3章 海へ／かけらう—イメージの形成をめぐって 1982-1986
4章 触—世界に触れる 1986-1998
5章 春に—エピローグ

《Cut-off (Paper Weight)》—風景を切り取る作法 (山本雅美)
吉田克朗 絵画の振幅 (西澤晴美)
「風景」の内奥へ—吉田克朗における〈触〉への道程 (菊川亜騎)
教育現場における吉田克朗の姿 (菊地真央)

吉田克朗年譜
主要文献目録
出品リスト
作品集成

Yoshida Katsuro: Touching Things, Landscapes, and the World

Explanation of each Chapter

Touch Between: Yoshida Katsuro's Present (Mizusawa Tsutomu)
Yoshida Katsuro as a Mono-ha Artist: Exploring Separation and Connection
Through "Cut-off" (Mori Keisuke)
On Distance and Separation: An Essay on Yoshida Katsuro (Hirano Itaru)



(見本) 吉田克朗=カバー

関連記事

▼展評・解説など

- ・中島良平(聞き手・文)「もの派、そして「触」シリーズへ。学芸員が語る「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」(神奈川県立近代美術館 葉山)」『ウェブ版 美術手帖』2024年4月26日
<https://bijutsutecho.com/magazine/interview/promotion/28788>
- ・砂上麻子「「もの派」吉田克朗さんに迫る 神奈川県立近代美術館葉山で回顧展」『東京新聞』2024年4月27日、19面
- ・藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 目指した新しい美術 吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」『神奈川新聞』2024年5月6日、15面
- ・高山羽根子「美術評 吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる「触れる」とこと 最後の作品まで模索」『東京新聞』2024年5月10日夕刊、3面
- ・西澤晴美「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる 上 Cut-off (Hang)「これって芸術?」反応歓迎」『東京新聞』2024年5月15日、7面
- ・西澤晴美「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる 下 『Work "9"』カメラのような独特の視覚」『東京新聞』2024年5月22日、7面
- ・勝俣涼「半透明の影—吉田克朗と「もの派」の超克」『コメット通信』2024年5月号、pp.3-4
- ・山梨俊夫「吉田克朗さんの記憶」『コメット通信』2024年5月号、pp.5-6
- ・神宮桃子「美の履歴書 850 ぞわぞわ 気配感じるわけ 「触“体—190 A & B”」吉田克朗 神奈川県立近代美術館蔵」『朝日新聞』2024年6月4日夕刊、2面
- ・藤田一人「美術 吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる 作家の感覚と鑑賞者のイメージ」『公明新聞』2024年6月12日、5面
- ・アライ ヒロユキ「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」自身を還元し ものに向き合う」『赤旗新聞』2024年6月14日、14面
- ・宮川匡司「文化 前衛美術家、絵画への道 覚悟の挑戦、触れて描く 吉田克朗 初の回顧展」『日本経済新聞』2024年6月29日、46面
- ・富井玲子「コンセプトから絵画へ—回顧展二題」『新美術新聞』2024年7月1日、3面
- ・猪飼尚司「Design もの派から触れる絵画に進化した、アーティストの全貌を知る回顧展『吉田克朗—ものに、風景に、世界に触れる』」『Pen』2024年7月号、p.139
- ・柏木智雄「美術 斎藤義重、吉田克朗、横浜トリエンナーレ」『神奈川大学評論』2024年7月号、pp.125-130
- ・高橋咲子、山田夢留「ART 美術 この1年 問い直し」『毎日新聞』2024年12月23日、3面

▼展覧会紹介：1紙(1回)／4誌(6回)

▼情報掲載：4紙(26回)／7誌(12回)

▼テレビ

- ・日本テレビ「ヒルナンデス！オトナ女子旅 in 逗子・葉山」2024年7月2日放映

葉山館

793

斎藤義重という起点—世界と交差する美術家たち

Saito Ghiju (Yoshishige), A Starting Point — Artists Intersecting with the World: From the Museum Collection

「吉田克朗展」にあわせ、吉田克朗（1943–1999）が多摩美術大学で師事した美術家の斎藤義重（1904–2001）を取り上げた。斎藤の作品とともに、今井俊満（1928–2002）、佐藤 敬（1906–1978）、堂本尚郎（1928–2013）など、1960年代に斎藤と交流し世界で活躍した美術家の代表作を展覧。また優れた美術教師でもあった斎藤の活動を、当館が所蔵する斎藤義重アーカイブの資料から紹介し、斎藤を起点に若手作家が世界へと飛躍した背景を辿った。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：4月20日(土)～6月30日(日)

休 館 日：月曜日(4月29日、5月6日を除く)

開 催 日 数：64日

出品総点数：作品36点、資料42点

総観覧者数：7,221人

担当学芸員：菊川亜騎、高嶋雄一郎 広報：太田原笙子

関連企画

1) 担当学芸員によるギャラリートーク 2024年4月29日(月・祝)

リーフレット

小冊子『コレクション展 斎藤義重という起点—世界と交差する美術家たち』

サ イ ズ：29.7×21.0cm、8ページ、無料配布

執 筆：菊川亜騎

編集・発行：神奈川県立近代美術館

目次

1. 世界へ—斎藤とパリの日本人作家たち

2. 斎藤義重アーカイブをひらく

写真から

1960.7-8 欧州滞在

1965.12-1966.5 アメリカ滞在

1960-1970年代 日本にて

教育関係資料—多摩美術大学 学生運動資料を中心に
斎藤義重と松澤宥

出品一覧



リーフレット

自ら描く絵画を連続的に撮影するドローイング・アニメーションの手法で制作した映像作品により、1990年代から国内外で評価されてきた石田尚志（1972-）の、2015年以来となる大規模な個展。映像と空間、あるいは立体造形と構成されるインスタレーションへの展開を経て、近年、10代以来となるキャンバス絵画に取り組む石田の、初期作品から近作までの代表作を概観するとともに、海を望む展示室3bで会期全期間にわたり壁面への公開制作と撮影を行った意欲的な展覧会となった。この公開制作は2025年度の巡回会場において新作として上映された。本展により作家は第75回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

主 催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協 力：タカ・イシイギャラリー
会 期：7月13日（土）～9月28日（土）
休 館 日：月曜日（7月15日、8月12日、9月16日、9月23日を除く）
開催日数：71日
出品総点数：66点（組作品含む）（巡回展83点／組作品含む）
総観覧者数：12,127人
担当学芸員：三本松倫代、長門佐季 広報：林直央
巡回先：アーツ前橋、高松市美術館

関連企画

- 1) 石田尚志 公開制作 7月13日（土）から9月28日（土）の間随時
(実施日：7月13日、14日、15日、20日、21日、27日、28日、8月1日、3日、4日、7日、8日、24日、27日、28日、31日、9月1日、5日、7日、8日、14日、15日、21日、22日、23日、24日、27日、18日)
- 2) アーティストトーク 7月15日（月・祝） 講師：石田尚志
- 3) 映像上映 8月10日（土）
- 4) トーク／パフォーマンス 8月10日（土） 講師：石田尚志、吉増剛造
- 5) 担当学芸員によるギャラリートーク 9月1日（日）、9月23日（月・祝）
- 6) クロージング・イベント 石田尚志／足立智美パフォーマンス
9月28日（土）



会場風景 1

撮影：白井晴幸



会場風景 2

撮影：白井晴幸



ポスター

カタログ

サ イ ズ：24.0×16.5 cm、324ページ、販売価格：2,970円(税込)

ISBN:978-4-910315-41-6

執 筆：石田尚志、夏 可君、萩原朔美、矢口哲男、横山由希子、三本松 倫代、出原 均、庭山貴裕、高見翔子

英文校閲・翻訳：キャサリン・リーランド

英 文 和 訳：三本松倫代

編 集：五十嵐健司（ケンエレブックス）

デ ザ イ ン：三木俊一（文京図案室）

発 行 者：石山建三

発 行 所：ケンエレブックス

印 刷：吉原印刷株式会社

製 本：渋谷文泉閣

目次

謝辞 / Acknowledgements

あらわれるものたちをして 三本松倫代

Let Those Who Appear (Sanbonmatsu Tomoyo)

i. 絵と窓の間 / i. Between Tableau and Window

石田尚志の芸術について一空間を孕むということ 夏 可君 /

On the Art of Ishida Takashi: Gestate Space (Xia Kejun)

ii. 初期絵画 / ii. Early Paintings and Drawings

指を虚空に解き放つ 矢口哲男 /

Leap Fingers into the Air (Yaguchi Tetsuo)iii. 映る画 / iii. Films and Moving

Images

音楽する映像 萩原朔美 /

Moving Images Playing Music (Hagiwara Sakumi)

描画と時間 出原 均 / Drawing and Time (Dehara Hitoshi)

絵画と映画のあいだ 庭山貴裕 /

Between Painting and Film (Niwayama Takahiro)

iv. インスタレーションへ / iv. Into the Installations

生成と消滅の青、旋回する線—石田尚志の《絵と窓の間》をめぐって 横山由希子 /

Appearing and Disappearing Blue, Rotating Lines: On Ishida Takashi's Between Tableau and Window (Yokoyama Yukiko)

v. 近作絵画 / v. Recent Paintings and Drawings

vi. 壁を離れて / vi. Off the Wall

パフォーマンスによる創作の転換と拡張—石田尚志の共同パフォーマンスを中心へ 高見翔子 /

Shift and Expansion of Creation Through Performance: A Focus on the Collaborative Performances of Ishida Takashi (Takami Shoko)

vii. 尖端と発端 / vii. Latest and Earliest Works

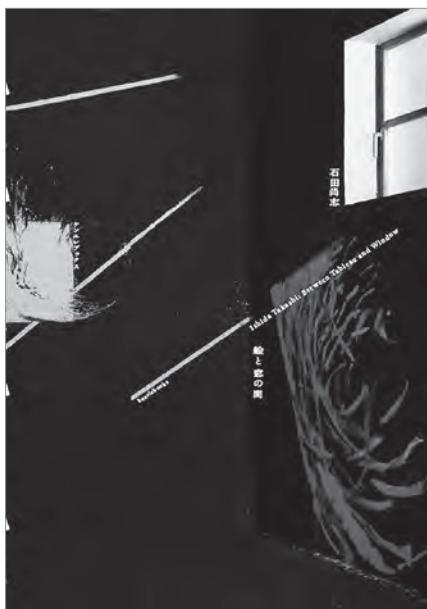
ことの領域／ことばの領域 石田尚志 /

Realm of Things / Realm of Words (Ishida Takashi)

略歴・主要文献 / Selected Biography and Bibliography

出品リスト / List of Works

クレジット／展覧会情報 / Credits / Exhibition Information



カタログ

関連記事

▼展評・解説など

・「ロール紙の絵巻 初公開 石田尚志さん企画展 葉山」『読売新聞』2024年7月14日、20面

・「石田尚志 絵と窓の間」 9月28日(土)まで 神奈川県立近代美術館 葉山『読売新聞』2024年7月25日、28面

・三本松倫代「石田尚志 絵と窓の間」展 上 絵を生む線 定点撮影 「中 フレームの中 流れる時間」「下 自然光のなか 公開制作」『読売新聞』2024年8月21日24面、8月22日22面、8月24日26面

・「芸術選奨 阿部サダヲさんら 【美術A】美術家・石田尚志 (52) =「石田尚志 絵と窓の間」展 ▽美術家・塩田千春 (52) =「塩田千春 つながる私 (アイ)」展【美術B】現代美術家・開発好明 (58)「ART IS LIVE ひとり民主主義へようこそ」展 ▽展覧会エンジニア・金築浩史 (62) =「札幌国際芸術祭 2024」『朝日新聞』2025年3月4日、27面

▼展覧会紹介：4紙(6回)／8誌(8回)

▼情報掲載：2紙(2回)／6誌(7回)

▼テレビ

・NHK E テレ「日曜美術館 アートシーン」2024年9月15日放映



会場風景 3

撮影：白井晴幸



会場風景 4

撮影：白井晴幸

葉山館

795

栗林 隆 Roots

Takashi Kuribayashi: Roots

栗林 隆（1968-）は、長崎に生まれ育ち、現在はインドネシアと日本を往復しながら活動するアーティストであり、活動開始から一貫して「境界」をテーマに、ドローイングや、インスタレーションや映像などの多様なメディアを用いて身体的体験を観客にうながす作品を国内外で発表してきた。

彼の作品は、自然と人間の関わりに対する本人の深い関心から生まれてきている——展示室の中に和紙で作られた林が広がる《Wald aus Wald（林による林）》（「ネイチャーセンス展」2010、森美術館）、そして薬草による蒸気で満たされた、原子炉の形を模した構造物の中で他の鑑賞者とともに過ごす〈元気炉〉シリーズ（2020-、下山芸術の森 発電所美術館ほか）、タンカーを様々な生態系が共存する一つの場として、さらには思想や作品を運ぶプラットフォームとして捉えた《Tanker Project》（2021-）などといった作品は、いずれも私たちの認識を搖るがすような刺激に満ちている。

本展は、そうした作家の視点によって生み出された、葉山館展示室外のさまざまな空間を利用した個展となった。本来展示空間ではないスペースのために発案されたインスタレーションをはじめとして、未発表のドローイングや映像作品なども展示することで、近年ますます活躍の場を広げている作家の過去と未来の「境界=今」を表現した。

主 催：神奈川県立近代美術館

企画協力：株式会社 ArtTank

会 期：12月14日（土）～2025年3月2日（日）

休 館 日：月曜日（1月13日、2月24日を除く）

開催日数：65日

出品総点数：6件（映像作品6点、過去に発表した作品7点を含む）

総観覧者数：5,988人

担当学芸員：高嶋雄一郎、引地彩紗 広報：ハリントン角皆萌仁香

関連企画

- 1) オープニング・イベント 12月14日（土）
開会式、アーティスト・トーク、オープニング・パーティーを含む
- 2) アーティストトーク 栗林 隆×藤堂 2025年2月22日（土）
ゲスト：藤堂（アーティスト）



ポスター



会場風景

撮影：永禮 賢

カタログ

サ イ ズ：23.5×17.8 cm、192ページ、販売価格：3,630円(税込)

ISBN:978-4-7630-2429-9 C0071

著 者：栗林 隆

執 筆：イスワント・ハルトノ、木村絵理子（弘前れんが倉庫美術館長）、志津野雷、高嶋雄一郎（神奈川県立近代美術館企画課長）、本田代志子（福岡教育大学教授）、小平悦子（ArtTank）

企画編集：小平悦子

編集協力：本田代志子

デザイン：鈴木 聖

発行者：足立欣也

発行所：株式会社求龍堂

印刷・製本：公和印刷株式会社

目次

I. 栗林隆 Roots 展

Essay：「美術館」という境界線で」高嶋雄一郎

II. プロジェクト—境界を越えて—

II-1. タンカー・プロジェクト

II-2. 元気炉

Essay：「共鳴する力を生み出す—元気炉—四号基 カッセル」木村絵理子

II-3. ドクメンタ 15

Photo Essay：「栗林隆、Cinema Caravan との出会い」イスワント・ハルトノ

Essay：「逗子海岸映画祭をドイツに運ぶ」志津野雷

II-4. ヤタイトリップ・プロジェクト

III. 作品

IV. インタビュー

V. 略歴、掲載作品リスト

Contents

I. Takashi Kuribayashi: Roots

Essay: TAKASHIMA Yuichiroh, Inside/Outside the Boundaries Called "Museum"

II. Projects: Beyond Boundaries

II-1. Tanker Project

II-2. Genki-ro

Essay: KIMURA Eriko, Creating Resonating Force Genki-ro / No.4 Kassel

II-3. documenta fifteen

Photo Essay: Iswanto Hartono, Encounter with Takashi Kuribayashi & Cinema Caravan

Essay: SHIZUNO Rai, Bringing the Zushi Beach Film Festival to Germany

II-4. Yatai Trip Project

III. Works

IV. Interview

V. Biography and List of Works

関連記事

▼展評・解説など

・山根聰「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山「栗林隆 Roots」「境界」意識し続け 「変奏」と「越境」と」『産経新聞』2025年1月25日、23面

・鴻知佳子「文化 「境界」とは? 現代美術で再考 コロナ禍・震災・制度を照射」『日本経済新聞』2025年2月18日、36面

・大西若人「美術館を貫くタンカー 栗林隆展」『朝日新聞』2025年2月25日夕刊、3面

▼展覧会紹介：3紙(15回)

▼情報掲載：3紙(15回)



カタログ

鎌倉別館

796

鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復

Kamakura Annex 40th Anniversary Exhibition

Repairing, Preserving, and Keeping: Conservation and Restoration of the Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

鎌倉別館の開館 40 周年を記念して、当館の保存修復の取り組みを「てあて」「まもり」「のこす」の 3 部構成で概観したコレクションによる企画展。「てあて」ではこれまでに修復された作品と修復報告書を展示し、その目的や過程を解説。「まもり」では作品を保護する額縁や収蔵・展示方法に注目したほか、温湿度、空気環境、光や害虫への対策など、環境管理に関する情報を資料や資料を用いて解説した。「のこす」では映像資料や解説パネルによって、野外彫刻作品の移設や作品を存続させるための大規模な修復事例を取り上げた。そのほか、修復の作業室の雰囲気が感じられるフォトスポットとして、修復作業に使用する道具や材料を展示了。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：5月18日(土)～7月28日(日)

休 館 日：月曜日(7月15日を除く)

開催日数：63日

出品総点数：作品28点、資料21件

総観覧者数：4,157人

担当学芸員：橋口由依、長門佐季 広報：永井慧彦

関連企画

1) ワークショップ「野外彫刻を洗う」5月25日(土)、6月8日(土)

担当：伊藤由美、橋口由依、永井慧彦

2) 担当学芸員によるギャラリートーク

各回、本展の出品作品から 1 点を取り上げて修復内容を解説

第1回：6月8日(土)古賀春江《窓外の化粧》

第2回：6月8日(土)大河内信敬《静物》

第3回：7月6日(土)青山義雄《家鴨の葬式》

第4回：7月6日(土)江見絹子《むれ(2)》

第5回：7月7日(日)村山知義《美しき少女等に捧ぐ》

第6回：7月7日(日)アンリ・マティス『シャルル・ドルレアン詩集』

第7回：7月20日(土)イサム・ノグチ《広島原爆慰靈碑のためのマケット》



ポスター



会場風景 1

撮影：佐藤克秋



会場風景 2

撮影：佐藤克秋

カタログ

サ イ ズ：21.6×23.5cm、48ページ、販売価格：1,100円(税込)
執 筆：長門佐季、橋口由依
編 集：長門佐季、伊藤由美、橋口由依
デ ザ イ ン：三木俊一（文京図案室）
印 刷：半七写真印刷工業株式会社
発 行：神奈川県立近代美術館

目次

あいさつ（長門佐季）

図版

てあて

まもり

のこす

出品リスト

謝辞／クレジット

関連記事

▼展評・解説など

- ・福島夏子「美術館の裏側を伝える展覧会「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」レポート」『Tokyo Art Beat』2024年5月30日
<https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/kamakura-annex-40th-anniversary-report-202405>

- ・三澤麦「てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」（神奈川県立近代美術館 鎌倉別館）レポート」『ウェブ版美術手帖』2024年6月20日
<https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/29113>

- ・山根聰「かながわ美の手帖 県立近代美術館「鎌倉別館」「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」劇的な変化あった それぞれにドラマ」『産経新聞』2024年7月1日、18面

- ・志村麻衣「【アートの魔法02】神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 40年目の思いと収蔵品を未来へ」『MAGCUL』2024年7月2日
<https://magcul.net/topics/298663>

- ・橋本麻里「東洋美術逍遙67 美術館の「展示」以外の活動を知る「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」」『週刊文春』2024年7月4日号（Vol.66、No.25）、p.102

- ・橋口由依「Curator's Voice コレクションを維持する保存修復の仕事に光を当てる。橋口由依が語る「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」」『ウェブ版美術手帖』2024年7月20日
<https://bijutsutecho.com/magazine/series/s34/29252>

- ・名古屋琉夏「角山ゼミナール「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館蔵の保存修復」を鑑賞して」『PLUSi Alius』Vol.3、神奈川大学、2024年9月30日、p.19

- ・浦島茂世「アートの仕事図鑑：美術館で保存修復を担う。橋口由依・伊藤由美（神奈川県立近代美術館 保存修復担当）」『ウェブ版美術手帖』2025年2月1日
<https://bijutsutecho.com/magazine/series/s40/30146>

- ・「あなたを展示へ連れゆくデザイン！「おちらしさんアワード2024～美術版～」結果発表 & 上位チラシ解説・受賞コメント」（美術版 第3位）『おちらしさんWEB（ネビュラエンタープライズ）』2025年2月5日
https://note.com/nevula_prise/n/n6ac40331c164?magazine_key=m30f73791f2b4

▼展覧会紹介：2紙(2回)／2誌(2回)

▼情報掲載：4紙(18回)／6誌(10回)

▼ラジオ

- ・「Fm Yokohama Kanagawa Muffin 夏のおでかけは美術館へ—神奈川県立近代美術館—」（橋口由依、聞き手：momo）2024年7月6日放送



カタログ

鎌倉別館

797

コレクション展 ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』／特集：スペインにいった現代日本版画展

Goya —The Caprices: The Disasters of War: Prints from the Museum Collection/ Special Section: 1959—Contemporary Japanese Prints Brought to Spain

鋭い眼差しで人間を描破し、近代の画家の先駆者と称されるフランシスコ・デ・ゴヤ (1746-1828)。彼の人生は、フランス革命やナポレオン軍によるスペイン侵攻、それに対する民衆蜂起が続く、激動の時代にあった。価値や秩序が変転するなか、自らは宮廷画家の地位を獲得し、その後、病で聴覚を失った。無音の世界で到達したのが銅版画によるモノクローム一光と闇の世界であった。本展では四大版画集から『気まぐれ』と『戦争の惨禍』を、前後期に分けて紹介した。

また特集として「1959- スペインにいった現代日本版画展」を行い、日本におけるゴヤの受容を起点に、日本とスペインの間に展開した版画の交流の一端を辿った。戦後に活況を帶びた国際的な版画交流の黎明期、当館が 1959 年にスペインと共同で開催した「現代日本版画展」に注目した。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：8月10日(土)～10月20日(日)

前期 8月10日(土)～9月8日(日)『気まぐれ』

後期 9月10日(火)～10月20日(日)『戦争の惨禍』

休 館 日：月曜日(8月12日、9月16日、9月23日、10月14日

を除く)

開催日数：66日

出品総点数：ゴヤ展 作品160点／特集展 作品14点、資料55点

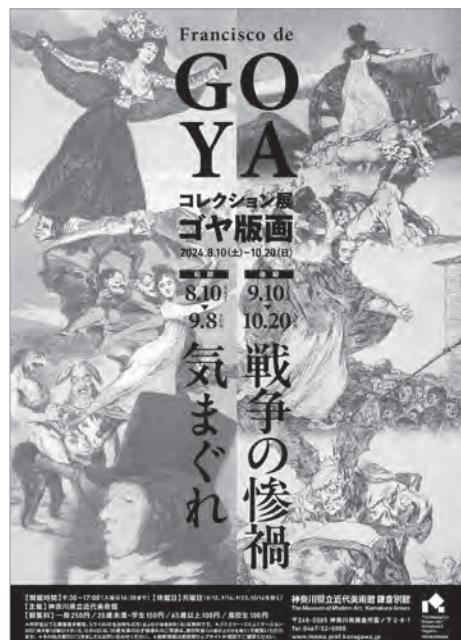
総観覧者数：4,059 人

担当学芸員：朝木由香、糸山昌夫、武者みづほ (ゴヤ版画展)、

松尾子水樹 (特集展) 広報：永井慧彦

関連企画

- 1) ワークショップ「版画を体験しよう」9月16日(月・祝) 講師：加瀬浩嗣 (版画家・デザイナー)
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク 8月24日(土)、9月21日(土)、10月5日(土)、10月19日(土)



ゴヤ版画展＆特集展チラシ



会場風景 1 (ゴヤ版画展後期)

撮影：小野田桂子



会場風景 2 (特集展)

撮影：小野田桂子

特集：「1959- スペインにいった現代日本版画展」 冊子
 サイズ：25.6×18.2cm、14ページ、無料
 編集：朝木由香、畠山昌夫
 執筆：リカル・ブル（バルセロナ自由大学）、松田健児（慶應義塾大学）、
 長門佐季、朝木由香、松尾子水樹
 翻訳：三木はるか（日本女子大学）
 デザイン：田辺智子（田辺智子デザイン室）
 撮影：久保良
 制作印刷：光村印刷株式会社
 発行：神奈川県立近代美術館
 助成：JSPS 科研費（課題番号 19K00147）

目次

あいさつ（長門佐季）

「神奈川県立近代美術館による版画『交流展』の実践—1957～1960年」（朝木由香）

「土方定一とエウダル・セラースペインにおける『現代日本版画展』（1959年）を軸に」（リカル・ブル／松田健児）

図版：「現代日本版画展」（1959年）出品版画

「土方定一差出 エウダル・セラ・グエイ宛 書簡資料」（三木はるか：英和訳）

「1959- スペインにいった現代日本版画展 関連年譜」（松尾子水樹：編）

出品リスト



特集展冊子

関連記事

▼展評・解説など

・田中聰「レビュー：心の闇、社会の裏側を「白」と「黒」でえぐり出す一神奈川県立近代美術館鎌倉別館でコレクション展『ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』』『美術展ナビ』8月5日

<https://artexhibition.jp/topics/news/20240821-AEJ2292034/>

・山根聰「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館 コレクション展『ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』』『光と闇』に刻んだ 人間どもの愚かさ』『産経新聞』9月23日、20面

・秋田麻早子「切断された遺体が、物のように木に吊り下げられ…「見つめ返されている気がしてくる」残酷な絵がえぐり出す“人間の暗部” フランシスコ・デ・ゴヤ 版画集『戦争の惨禍』39『立派なお手柄！死人を相手に！』（1863年）』『文春オンライン』10月8日

<https://bunshun.jp/articles/-/73939>

・秋田麻早子「文春美術館 名画レンタルゲン 71 遺体の無造作な配置がもたらす印象 フランシスコ・デ・ゴヤ 版画集『戦争の惨禍』39『立派なお手柄！死人を相手に！』』『週刊文春』10月10日号（Vol.66 No.38）、p.96

▼展覧会紹介：1紙(1回)／8誌(8回)

▼情報掲載：1紙(12回)／1誌(1回)



ゴヤ版画『気まぐれ』作品リスト（前期）



ゴヤ版画『戦争の惨禍』作品リスト（後期）

鎌倉別館

798

コレクション展 たいせつなものI 新収蔵作品展 2015～2019

New Treasure of the Museum Collection I: Acquisitions from 2015 to 2019

「たいせつなもの」と題して、新収蔵品を紹介するシリーズの第1弾。本展では2015年度から2019年度に寄贈された作品などや、神奈川県美術展と神奈川県女流美術家協会展で神奈川県立近代美術館賞を受賞した作品の中から、ジョニー・フリードランデル、小野絵麻、岡本半三、木村忠太、木下晋などの収蔵後未公開の61点を展示した。なお、展示ロビーでは11月30日～12月22日に令和6年度(第53回)文化財保護ポスター展の最優秀作品を展示した。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：11月2日(土)～2025年1月19日(日)

休 館 日：月曜日(11月4日、1月13日を除く)、12月29日～1月3日

開催日数：65日

出品総点数：61点

総観覧者数：3,592人

担当学芸員：畠山昌夫、大原万季 広報：太田原笙子

関連企画

1) 担当学芸員によるギャラリートーク 11月23日(土・祝)、12月21日(土)

関連記事

▼情報掲載：2紙(3回)／3誌(8回)



ポスター



会場風景 1

撮影：セキフォトス



会場風景 2

撮影：セキフォトス

鎌倉別館

799

岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑

Iwatake Rie + Kataoka Junya, and the Museum Collection
An Illustrated Guide for Gravity and Materials

2013年よりユニットでの作品発表を始めた岩竹理恵+片岡純也（共に1982-）。イメージの連想によって絵画の空間性を思索する岩竹の平面作品と、身の回りや自然の現象から着想を得た片岡のキネティック作品とを、インスタレーションとして構成することを通して、身体性や時間性を喚起する新たな視覚体験を促してきた。本展は、曼荼羅、大津絵、鯵絵、茶器などの日本美術を中心に作家と学芸員が作品を選定し、当館のコレクションに新たな光をあてる企画である。対象を他のものになぞらえ、そこに実在しないものがあるように表現する「見立て」や、浮世絵の画中画などに示される絵画の「入れ子」構造など、日本美術に見られる造形的な特色と魅力を、遊び心のあるユニークな手法を通して探究した。

主 催：神奈川県立近代美術館
助 成：公益財団法人 小笠原敏晶記念財団
支 援：令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成
支援事業
協 力：Kawara Printmaking Laboratory Inc.
会 期：2025年2月1日(土)～4月13日(日)
休 館 日：月曜日(2月24日を除く)
開 催 日 数：51日(63日)
出 品 総 点 数：66点
総観覧者数：2,159人(3,015人)
担当学芸員：西澤晴美、三本松倫代 広報：永井慧彦

関連企画

- 1) アーティストによるギャラリートーク 2025年3月1日(土) 岩竹理恵+片岡純也、ゲスト：関島寿子(アーティスト)
- 2) アーティストによるギャラリートーク 2025年4月13日(日) 岩竹理恵+片岡純也、ゲスト：村田真(美術ジャーナリスト、画家)
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク 2025年3月15日(土)、3月29日(土)
- 4) ワークショップ「やじろぐ枝」2025年3月25日(火) 講師：岩竹理恵+片岡純也



ポスター



会場風景 1

撮影：高橋健治



会場風景 2

撮影：高橋健治

カタログ

サ イ ズ：36.4×25.7cm、48ページ、販売価格：1,400円(税込)
執 筆：村田 真、ジョン・L・トラン、長門佐季、西澤晴美
題字デザイン：渡邊翔
印 刷：株式会社山田写真製版所
編集・発行：神奈川県立近代美術館

目次

あいさつ（長門佐季）
(岩竹理恵+片岡純也) ×コレクション=重力と素材のための図鑑（村田 真）
エロ、形而下学、ナンセンス（ジョン・L・トラン）
美術館という「入れ子」（西澤晴美）

会場写真

略歴

出品リスト

Foreword (Nagato Saki)

Ero, Physics, Nonsense (John L Tran)

(Iwatake Rie + Kataoka Junya) × Collection = An Illustrated Guide for Gravity and Materials (Murata Makoto)

A "Nested" Museum (Nishizawa Harumi)

関連記事

▼展評・解説など

- ・「アートテラー・とにかく『私が観てきた展覧会』 岩竹理恵+片岡純也 ×コレクション 重力と素材のための図鑑」『ギャラリー』2025年3月号、pp.36-37
- ・山根 晴「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館 「岩竹理恵+片岡純也 ×コレクション 重力と素材のための図鑑」展 「入れ子」構造極め 博物誌的な趣堪能」『産経新聞』2025年3月29日、21面
- ・水沢 勉「色と形は呼び交わす 第26回 岩竹理恵+片岡純也 包み、包まれる」『アートコレクターズ』2025年5月号、pp.68-69
- ・塚田 優「はけ先の間から覗いて見れば—岩竹理恵+片岡純也 ×コレクション「重力と素材のための図鑑」評（前編）」『artscape』2025年6月6日
<https://artscape.jp/article/40046/>
- ・塚田 優「はけ先の間から覗いて見れば—岩竹理恵+片岡純也 ×コレクション「重力と素材のための図鑑」評（後編）」『artscape』2025年6月6日
<https://artscape.jp/article/40045/>
- ▼展覧会紹介：1紙(1回)／1誌(1回)
- ▼情報掲載：2紙(12回)／7誌(13回)
- ▼映像配信
- ・アート大好き BIRD BIRD チャンネル (YouTube) 「ART TO TALK Vol. 4 美術作家 片岡純也 from 岩竹理恵+片岡純也」2025年2月22日公開

岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑

Iwatake Rie + Kataoka Junya, and the Museum Collection: An Illustrated Guide for Gravity and Materials



カタログ

教育普及活動

2024(令和6)年度 教育普及事業一覧

受講・参加プログラム(講演会、イベント・ワークショップ、地域連携、学校連携等)

	事業名	事業内容				事業実績等	
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
展覧会関連講演会等	記念トーク「吉田克朗を語る」	葉山館の企画展「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」関連イベントとして、記念トーク「吉田克朗を語る」を開催	小清水漸(彫刻家)	R6.4.20	葉山館講堂	整理券配布	73名
	座談会—吉田克朗と「もの派」 *図1	葉山館の企画展「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」関連イベントとして、座談会を開催	平野到(埼玉県立近代美術館)、山本雅美(奈良県立美術館)、森啓輔(千葉市美術館)、西澤晴美	R6.6.9	葉山館講堂	先着順	49名
	アーティストトーク	葉山館の企画展「石田尚志 絵と窓の間」の関連イベントとして、アーティストトークを開催	石田尚志(本展出品作家)	R6.7.15	葉山館講堂 エントランス で中継	整理券配布 中継は自由 参加	66名
	アーティストトーク 栗林隆×藤堂 *図2	葉山館の「栗林隆 Roots」展の関連イベントとしてアーティストトークを開催	栗林隆(本展出品作家)、藤堂(アーティスト)	R7.2.22	葉山館 展示ロビー1	先着順	87名
	アーティストによるギャラリートーク 岩竹理恵+片岡純也(ゲスト: 関島寿子)	鎌倉別館の企画展「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」関連イベントとして、ギャラリートークを開催	岩竹理恵+片岡純也(本展出品作家)、関島寿子(アーティスト)	R7.3.1	鎌倉別館 展示室	先着順	51名
イベント・ワークショップ	小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ・ナイトバージョン	企画展「小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ・ナイトバージョン」に関連した、映像と演奏によるコラボレーションイベント	小金沢健人(本展出品作家)、千葉広樹(ペースト、作曲家)	R6.5.6	鎌倉別館	自由参加・ 先着順	41名
	企画展「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」関連ワークショップ「キミも克朗！ 葉っぱをうつしろう！」	企画展「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」に関連して、吉田克朗も実践した技法「転写」を使って作品を制作するワークショップを開催	西澤晴美、大原万季、ハリントン角皆萌仁香、林直央、太田原笙子	R6.5.18	葉山館 講堂・展示室	自由参加	79名
	ワークショップ「野外彫刻を洗う」 *図3	企画展「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」に関連して、鎌倉別館野外彫刻のメンテナンスを体験するワークショップを開催	橋口由依、伊藤由美、永井慧彦	R6.5.25	鎌倉別館 庭園	事前申込制・ 先着順	5名
	ワークショップ「野外彫刻を洗う」	企画展「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」に関連して、鎌倉別館野外彫刻のメンテナンスを体験するワークショップを開催	橋口由依、伊藤由美、永井慧彦	R6.6.8	鎌倉別館 庭園	事前申込制・ 先着順	4名
	夏のおたのしみと学びのセット「夏のたね'24 かげとであう かげをあそぶ」配布 *図4、5	教育普及グッズの配布	西澤晴美、大原万季、永井慧彦、林直央、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香	R6.7.20～ 8.31	葉山館 鎌倉別館	18歳以下	866部
ギャラリートーク	夏のおたのしみと学びのセット「夏のたね'24 かげとであう かげをあそぶ」ワークショップ *図4、5	「夏のたね'24 かげとであう かげをあそぶ」を用いたワークショップ	西澤晴美、大原万季、永井慧彦、林直央、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香	R6.8.4/ 8.8/8.22 (各日午前・ 午後計6回)	葉山館講堂	18歳以下 事前申込制・ 抽選	78名
	企画展「石田尚志 絵と窓の間」映像上映	葉山館の企画展「石田尚志 絵と窓の間」に関連し、石田尚志(本展出品作家)と吉増剛造(詩人)が過去に行ったパフォーマンスの記録映像を上映	石田尚志(本展出品作家)	R6.8.10	葉山館講堂	自由参加	43名
	企画展「石田尚志 絵と窓の間」トーク／パフォーマンス	企画展「石田尚志 絵と窓の間」に関連し、トークおよびパフォーマンスを実施	石田尚志(本展出品作家)、吉増剛造(詩人)	R6.8.10	葉山館 展示室3b	自由参加	95名
	企画展「石田尚志 絵と窓の間」クロージング・イベント 石田尚志/足立智美パフォーマンス	企画展「石田尚志 絵と窓の間」の関連イベントとしてパフォーマンスを実施	石田尚志(本展出品作家)、足立智美(パフォーマー、作曲家、音響詩人)	R6.9.28	葉山館 中庭	自由参加	150名
	夏のおたのしみと学びのセット「夏のたね'24 かげとであう かげをあそぶ」ワークショップ	「夏のたね'24 かげとであう かげをあそぶ」を用いたワークショップ	永井慧彦、林直央、西澤晴美	R6.8.20	鎌倉別館	18歳以下 事前申込制・ 抽選	7名
ギャラリートーク	コレクション展「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』特集「1959～スペインにいった現代日本版画展」関連ワークショップ「版画を体験しよう」 *図6	版画展に関連して、ドライポイントの技法を体験するワークショップ	加瀬浩嗣(版画家、デザイナー)	R6.9.16	鎌倉別館 カフェ スペース	10歳以上 事前申込制	11名
	企画展「栗林隆 Roots」オープニング・イベント *図7	企画展「栗林隆 Roots」展初日に、「ドクメンタリ15」参加作品「蚊帳の外」の一部を特別展示し、CINEMA CARAVAN プロデュースによるオープニング・パーティーを中庭で開催	栗林隆(本展出品作家)、CINEMA CARAVAN、高嶋雄一郎	R6.12.14	葉山館 中庭	自由参加	75名
	企画展「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」ワークショップ「やじろべえ」 *図8	企画展「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」ワークショップ	岩竹理恵+片岡純也(本展出品作家)	R7.3.25	鎌倉別館 カフェ スペース	事前申込制、 定員10名	10名
	コレクション展「斎藤義重という起点—世界と交差する美術家たち」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	菊川亜騎	R6.4.29	葉山館 展示室	先着順	7名
	企画展「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R6.5.11	葉山館 展示室	先着順	6名
ギャラリートーク	企画展「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R6.6.16	葉山館 展示室	先着順	15名
	企画展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説 古賀春江《窓外の化粧》	橋口由依	R6.6.8	鎌倉別館 展示室	先着順	23名
	企画展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説 大河内信敬《静物》	橋口由依	R6.6.8	鎌倉別館 展示室	先着順	15名

	事業名	事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
ギャラリートーク	企画展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説 青山義雄《家鶴の葬式》	橋口由依	R6.7.6	鎌倉別館 展示室	先着順	17名
	企画展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説 江見絹子《むれ(2)》	橋口由依	R6.7.6	鎌倉別館 展示室	先着順	14名
	企画展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説 村山知義《美しき少女等に捧ぐ》	橋口由依	R6.7.7	鎌倉別館 展示室	先着順	16名
	企画展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説 アンリ・マティス『シャルル・ドルアン詩集』	橋口由依	R6.7.7	鎌倉別館 展示室	先着順	29名
	企画展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす」神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク *図9	学芸員による作品解説 イサム・ノグチ《広島原爆慰霊碑のためのマケット》	橋口由依	R6.7.20	鎌倉別館 展示室	先着順	37名
	コレクション展「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』特集「1959－スペインにいった現代日本版画展」」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	朝木由香	R6.8.24	鎌倉別館 展示室	先着順	17名
	コレクション展「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』特集「1959－スペインにいった現代日本版画展」」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	武者みずほ、朝木由香	R6.9.21	鎌倉別館 展示室	先着順	21名
	コレクション展「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』特集「1959－スペインにいった現代日本版画展」」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	武者みずほ、朝木由香	R6.10.5	鎌倉別館 展示室	先着順	20名
	コレクション展「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』特集「1959－スペインにいった現代日本版画展」」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	武者みずほ、朝木由香	R6.10.19	鎌倉別館 展示室	先着順	10名
	企画展「石田尚志 絵と窓の間」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R6.9.1	葉山館 展示室	先着順	30名
	企画展「石田尚志 絵と窓の間」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R6.9.23	葉山館 展示室	先着順	39名
	コレクション展「たいせつなもの I－新収蔵作品展 2015～2019」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	糸山昌夫	R6.11.23	鎌倉別館 展示室	先着順	6名
	コレクション展「たいせつなもの I－新収蔵作品展 2015～2019」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	糸山昌夫	R6.12.21	鎌倉別館 展示室	先着順	7名
	企画展「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R7.3.15	鎌倉別館 展示室	先着順	5名
	企画展「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R7.3.29.	鎌倉別館 展示室	先着順	20名
地域連携	葉山芸術祭こどもプロジェクト「美術館へ行こう！」 *図10	葉山町近隣に住む子どもたちが美術館へ行くプログラム。美術館のバックヤードツアーを行う	糸山昌夫	R6.4.29	葉山館	事前申込制	16名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「吉田克朗－ものに、風景に、世界に触れる」	西澤晴美	R6.5.17	葉山町福祉文化会館	先着順	15名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「石田尚志 絵と窓の間」	三本松倫代	R6.8.2	葉山町福祉文化会館	先着順	9名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』」	朝木由香	R6.9.6	葉山町福祉文化会館	先着順	22名
	近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）	「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」	西澤晴美	R7.2.28	葉山町福祉文化会館	先着順	12名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	「吉田克朗－ものに、風景に、世界に触れる」	西澤晴美	R6.5.22	逗子市役所会議室	事前申込制	22名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	「石田尚志 絵と窓の間」	三本松倫代	R6.7.24	逗子市役所会議室	事前申込制	15名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』」	朝木由香	R6.9.4	逗子市役所会議室	事前申込制	17名
	近代美術館入門講座（逗子市共催連続講座）	「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」	西澤晴美	R7.2.12	逗子市役所会議室	事前申込制	22名
	鎌倉文化ゾーンミュージアムめぐりスタンプラリー関連企画 2024 北条政子歿後800年 5館+1館の学芸員によるトークセッション「鎌倉と女性」	神奈川県立近代美術館 鎌倉別館、鎌倉国宝館、鎌倉市鎌木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、鎌倉歴史文化交流館、鎌倉芸術館の学芸員によるトークセッション「鎌倉と女性」	三本松倫代	R7.3.1	鎌倉歴史文化交流館	事前申込制	25名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 竹のビルディング・ワークショップ	葉山館の竹を使って、トンネル「しの竹の回廊」と巨大な魚籠「巨魚籠」をつくるワークショップ	兼子朋也(関東学院大学准教授)、日高仁(関東学院大学准教授)、朝山正和(葉山芸術祭顧問)、駿前かぐや(さんわーくかぐや)	R7.3.20	葉山館 中庭・散策路	事前申込制	62名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 ウィグス笛づくり	竹を使って「ウダイス笛」をつくるワークショップ	さんわーく かぐや	R7.3.21	葉山館	自由参加	55名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 作品のない展示室見学会	展示室の見学会	糸山昌夫、西澤晴美、大原万季、ハリントン角皆萌仁香、加藤優奈、太田原笙子	R7.3.21	葉山館	事前申込制	3名

	事業名	事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
地域連携	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 竹ひごのオーナメントづくり	竹を使ってオーナメントをつくるワーク ショップ	逗子竹活	R7.3.22	葉山館	自由参加	46名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 作品のない展示室見学会	展示室の見学会	糸山昌夫、西澤晴美、大原万季、ハリントン 角皆萌仁香、加藤優奈、太田原笙子	R7.3.22	葉山館	事前申込制	9名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 竹ひごのオーナメントづくり	竹を使ってオーナメントをつくるワークショップ	逗子竹活	R7.3.23	葉山館	自由参加	55名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 雅楽演奏1回目	雅楽器(ひちりき、竜笛、笙)の演奏会	有松 司(ひちりき)、那須康子(竜笛)、安田 涉(笙)	R7.3.23	葉山館	自由参加	50名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 作品のない展示室見学会	展示室の見学会	糸山昌夫、西澤晴美、大原万季、ハリントン 角皆萌仁香、加藤優奈、太田原笙子	R7.3.23	葉山館	事前申込制	21名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む 縁たけなわ 広場 雅楽演奏2回目	雅楽器(ひちりき、竜笛、笙)の演奏会	有松 司(ひちりき)、那須康子(竜笛)、安田 涉(笙)	R7.3.23	葉山館	自由参加	40名
県立社会教育施設公開講座	「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」40周年記念連続講演会/第1回	「戦後神奈川の文化行政と美術館を巡って」	藤嶋俊會(美術評論家、元神奈川県民ホール・ギャラリー学芸員)	R6.11.4	鎌倉商工会議所会館	先着順	10名
	「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」40周年記念連続講演会/第2回	「自作を語る」	木下 晋(美術家、金沢美術工芸大学名誉客員教授、本展出品作家)	R6.11.23	鎌倉商工会議所会館	先着順	22名
	「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」40周年記念連続講演会/第3回	「「知の泉」としての山口蓬春文庫」	笠 理砂(山口蓬春記念館副館長・上席学芸主任)	R6.12.7	鎌倉商工会議所会館	先着順	10名
	「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」40周年記念連続講演会/第4回	「鶴岡八幡宮寺二十五坊跡の現在—古都鎌倉の遺跡地と古都保存法—」	八幡義信(NPO法人鎌倉地域振興協会理事長、元神奈川県立歴史博物館学芸部長、元鎌倉女子大学教授)	R6.12.21	鎌倉商工会議所会館	先着順	50名
	「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」40周年記念連続講演会/第5回	「神奈川県立近代美術館の40年—1984年から2000年までを中心に—」	橋 秀文(目黒区美術館館長、元神奈川県立近代美術館企画課長兼普及課長)	R7.1.18	鎌倉商工会議所会館	先着順	20名
「学校連携インクルーシブワークshop」 *図11	フリースクール Largo ワークショップ	フリースクールに通う児童生徒を対象とした、展示見学を含むワークショップ	永井慧彦	R6.10.8	鎌倉別館	事前申込制	7名
	神奈川県立湘南高等学校出張ワークショップ	美術館・普及事業紹介及びオリジナル教材「○と□」を使用したワークショップ	糸山昌夫、西澤晴美、大原万季、ハリントン 角皆萌仁香、林直央、太田原笙子	R6.10.1/ 10.10~ 10.11	湘南高校 美術室	事前申込制	178名
インクルーシブ事業「むすんでひらいてプロジェクト」	葉山町立一色小学校支援学級(1、2、3年生) 出張ワークショップ	オリジナル教材「色と形をならべてみよう」 を使用したワークショップ	大原万季、ハリントン角皆萌仁香、太田原 笙子	R6.6.18	葉山町立 一色小学校 図工室	事前申込制	13名
	横須賀市立大楠中学校・武山中学校・長井中学校の支援学級との連携事業	オリジナル教材「色と形をならべてみよう」 を使用したワークショップと企画展の見学	大原万季、ハリントン角皆萌仁香、太田原 笙子	R6.6.28	葉山館 講堂、展示室	事前申込制	24名
	葉山町立一色小学校支援学級(4、5、6年生) 出張ワークショップ	オリジナル教材「ポータブルアートミュージアム」を使用したワークショップ	大原万季、ハリントン角皆萌仁香、林直央	R6.7.2	葉山町立 一色小学校 図工室	事前申込制	19名
	神奈川県立相模原支援学校橋本分教室出張ワークショップ	オリジナル教材「○と□」を使用したワーク ショップ	糸山昌夫、ハリントン角皆萌仁香、太田原 笙子	R6.7.10	神奈川県立 相模原支援学校 橋本分教室	事前申込制	42名
	横浜デザイン学院(留学生)出張ワークショップ	オリジナル教材「ポータブルアートミュージアム」を使用したワークショップ	糸山昌夫、太田原笙子	R6.7.19	横浜デザイ ン学院	事前申込制	20名
	横浜デザイン学院(留学生)との連携事業	オリジナル教材「ポータブルアートミュージアム」を使用したワークショップと展覧会鑑賞	太田原笙子	R6.8.1	葉山館 講堂	事前申込制	6名
	葉山町立一色小学校支援学級(1、2、3年生) との連携事業	オリジナル教材マップ「彫刻はどこにいる の?」を使用した彫刻鑑賞	太田原笙子、西澤晴美、大原万季、林直央	R6.11.7	葉山館 庭園	事前申込制	13名
	葉山町立一色小学校支援学級(4、5、6年生) との連携事業	オリジナル教材「○と□」を使用したワーク ショップ	太田原笙子、西澤晴美、大原万季、ハリントン 角皆萌仁香	R6.11.12	葉山館 講堂	事前申込制	15名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む ビルディングワークショップ準備(竹の伐採)	地域の大学生および日中一時支援事業所 所者参加事業	兼子朋也(関東学院大学准教授)、日高仁 (関東学院大学准教授)、朝山正和(葉山芸術祭顧問)、さんわーくかぐや、糸山昌夫、 林直央、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香	R6.11.16	葉山館 庭園	事前申込制	25名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む ビルディングワークショップ準備(竹の伐割、竹削、切断、 穴あけ)	地域の日中一時支援事業所通所者参加事業	兼子朋也、朝山正和、さんわーくかぐや、 糸山昌夫、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香、 加藤優奈	R7.3.6	葉山館	事前申込制	10名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む ビルディングワークショップ準備(竹の伐採、竹削、切断、 穴あけ)	地域の日中一時支援事業所通所者参加事業	兼子朋也、日高仁、朝山正和、さんわーく かぐや、糸山昌夫、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香、 加藤優奈	R7.3.8	葉山館	事前申込制	16名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む ビルディング・ワークショップ準備(試作)	地域の日中一時支援事業所通所者参加事業	兼子朋也、朝山正和、さんわーくかぐや、 糸山昌夫、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香、 加藤優奈	R7.3.15	葉山館	事前申込制	7名
	神奈川県立近代美術館の竹を編む ビルディング・ワークショップ準備(試作)	地域の日中一時支援事業所通所者参加事業	兼子朋也、朝山正和、さんわーくかぐや、 糸山昌夫、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香、 加藤優奈	R7.3.18	葉山館	事前申込制	11名

事業名	事業内容				事業実績	
	テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
「もすんでひらいてプロジェクト」	神奈川県立近代美術館の竹を編む 撤去	地域の日中一時支援事業所通所者参加事業	日高仁、朝山正和、さんわーくかぐや、逗子竹活、鶴山昌夫、太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香、加藤優奈	R7.3.25	葉山館 中庭、散策路	事前申込制 15名
	逗子市立小坪小学校支援学級出張ワークショップ	オリジナル教材「色と形をならべてみよう」を使用したワークショップ	太田原笙子、西澤晴美、大原万季	R7.1.14	逗子市立小坪小学校 ミシン室	事前申込制 12名
	神奈川県立相模原支援学校橋本分教室出張ワークショップ	オリジナル教材「ポータブルアートミュージアム」を使用したワークショップ	太田原笙子、大原万季、ハリントン角皆萌仁香	R7.2.19	神奈川県立相模原支援学校 橋本分教室	事前申込制 44名
実習・研修等受入	総合教育センター 美術館を活用した授業づくり研修講座	教員に向けた美術の授業づくりの提案等	鶴山昌夫、三本松倫代、西澤晴美	R6.7.23	葉山館 講堂	事前申込制 20名
	博物館学芸員実習	計5日間／6校(学習院大学、筑波大学大学院、相模女子大学、上智大学、東北芸術工科大学、多摩美術大学) *図12	西澤晴美、ハリントン角皆萌仁香、長門佐季、鶴山昌夫、高嶋雄一郎、橋口由依、大原万季、伊藤由美、朝木由香、林直央、太田原笙子、永井慧彦、中村瑞木	R6.8.6～9 /8.13	葉山館 講堂、展示室、会議室 鎌倉別館等	事前申込制 35名
	教員研修(令和6年度 小・中学校初任者研修 逗子・三浦・葉山合同夏季研修)	令和6年度 小・中学校初任者研修 逗子・三浦・葉山合同夏季研修	長門佐季、三本松倫代、林直央	R6.8.9	葉山館 講堂	事前申込制 38名
	高校生インターンシップ	計2日間／3校(神奈川県立鶴見総合高等学校、神奈川県立上満南高等学校、鶴見大学附属高等学校)	長門佐季、鶴山昌夫、高嶋雄一郎、西澤晴美、大原万季、鎌木めぐみ、林直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原笙子	R6.8.14～8.15	葉山館 講堂、展示室等	事前申込制 6名
	教員研修(横浜市都筑区図画工作科研究会)	普及事業紹介及び図画工作科教員に向けた授業づくりの提案とオリジナル教材「ポータブル・アートミュージアム」を使用したワークショップ	西澤晴美、太田原笙子	R6.8.19	横浜市立茅ヶ崎小学校	事前申込制 35名
	教員研修(横浜市緑区図画工作科研究部実技研修会)	アートカードを用いた鑑賞授業や「○と□」を使用したワークショップ	鶴山昌夫	R6.8.19	横浜市立三保小学校	事前申込制 32名
	中学生職場体験	計6日間／3校(葉山町立南郷中学校、横須賀市立大楠中学校、逗子市立逗子中学校)	ハリントン角皆萌仁香、太田原笙子	R6.10.30～31/11.13～14/11.27～28	葉山館 鎌倉別館	事前申込制 16名
	小田原市足柄上郡小学校図画工作部会研修会	アートカードを用いた鑑賞授業や「○と□」を使用したワークショップ	鶴山昌夫、ハリントン角皆萌仁香	R6.11.12	小田原市立早川小学校	事前申込制 42名
	うぇるま(葉山スポーツ協会運営のクラブ)	「ポータブル・アートミュージアム」を使用したワークショップ	大原万季、太田原笙子	R6.11.30	葉山町立一色小学校	事前申込制 8名
	教育普及事業総計(配布を除く)					2,623名



図1. 「座談会—吉田克朗と「もの派」」
講師：平野到（埼玉県立近代美術館）、山本雅美（奈良県立美術館）、森啓輔（千葉市美術館）、西澤晴美
日程：6月9日
場所：葉山館 講堂



図2. 「アーティストトーク 栗林隆×藤堂」
講師：栗林隆（本展出品作家）、藤堂（彫刻家）、高嶋雄一郎
日程：2025年2月22日
場所：葉山館 展示ロビー1



図3. 「野外彫刻を洗う」
講師：橋口由依、伊藤由美、永井慧彦
日程：5月25日
場所：鎌倉別館 庭園



図4. 「夏のたね'24 かげとあらう かげをあそぶ」ワークショップ
日程：8月8日
場所：葉山館 庭園



図5. 「夏のたね'24 かげとあう かげをあそぶ」ワークショップ
日程: 8月8日
場所: 葉山館 講堂



図6. ワークショップ「版画を体験しよう」
講師: 加瀬浩嗣 (版画家・デザイナー)
日程: 9月16日
場所: 鎌倉別館 カフェスペース



図7. 企画展「栗林隆 Roots」オープニング・イベント
講師: 栗林 隆 (本展出品作家)、CINEMA CARAVAN、高嶋雄一郎 (聞き手)
日程: 12月14日
場所: 葉山館 中庭



図8. ワークショップ「やじろぐ枝」
講師: 岩竹理恵+片岡純也 (本展出品作家)
日程: 3月25日
場所: 鎌倉別館 カフェスペース



図9. コレクション展「鎌倉別館 40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」担当学芸員によるギャラリートーク
日程: 7月20日
場所: 鎌倉別館 展示室



図10. 葉山芸術祭こどもプロジェクト「美術館へ行こう！」
講師: 朝山昌夫
日程: 4月29日
場所: 葉山館



図11. 神奈川県立湘南高等学校との連携 ワークショップ「○と□」
日程: 10月10日
場所: 神奈川県立湘南高等学校



図12. 博物館学芸員実習
日程: 8月13日
場所: 鎌倉別館 展示室

団体来館受入状況

団体種別	件数等
学校教育機関等	小学校：3校／延べ3回91名
	中学校：7校／延べ8回122名
	大学：6校／延べ7回269名
	特別支援学校：1校／1回8名
	その他：4団体／延べ4回97名
その他	病院・福祉団体：2団体／延べ2回26名
	他美術館：1団体／1回25名
	旅行会社・観光等の団体：2団体／延べ2回50名
	その他団体：3団体／延べ3回49名

〔註〕

1. このデータは事前申込による団体来館受入数に限る。

2. 5月7日、5月16日、5月18日、6月2日、6月8日、6月16日、7月4日、7月25日、8月9日、8月23日、10月8日の団体来館受入時には、学芸員がレクチャーを行った。

「Museum Box 宝箱」貸出

内容	件数等
貸出総個数	8個
貸出先	3校
貸出回数	延べ4回
利用総人数	249名
内訳概要	小学校：1校／延べ2回 中学校・高校：1校 専門学校、その他：1校
地域	鎌倉市1ヶ所、藤沢市1ヶ所、横浜市1ヶ所

スタンプラリー

鎌倉文化ゾーン〔小町通り・八幡宮エリア〕ミュージアムめぐり スタンプラリー	期間：2024年4月27日～2025年3月31日
・「鎌倉文化ゾーン〔小町通り・八幡宮エリア〕」にある鎌倉別館を含め、鎌倉国宝館や鎌倉市鎌木清方記念美術館など5つの施設をめぐるスタンプラリーを実施した。	
主催：鎌倉市鎌木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、神奈川県立近代美術館、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館	
葉山を巡るスタンプラリー	期間：2025年3月1日～3月16日
・葉山館含め葉山しおさい公園、山口蓬春記念館など7つのラリーポイントをめぐるスタンプラリーを実施した。	
主催：県立葉山公園、はやま三ヶ岡山緑地指定管理者 株式会社三菱電機ライフサービス	

文化財保護ポスター展示

・第53回文化財保護ポスター応募作品から選ばれた最優秀賞の作品3点を展示した。
主催：神奈川県教育委員会
共催：鎌倉市
場所：鎌倉別館 2階展示ロビー
期間：2024年11月30日～12月22日

美術図書室

鈴木めぐみ

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録 2025年3月末現在) 111,073冊
- ・逐次刊行物タイトル数 和2,523タイトル 洋406タイトル
- ・2024年度新規図書・AV・図録登録数 1,924冊
- ・2024年度除籍数 1,970冊

2) 閲覧サービス

- ・2024年度 開室日数 295日
- ・2024年度 入室者数 4,062名 1日平均14名
- ・2024年度 複写枚数 2,190枚
- ・2024年度 レファレンス受付件数 56件
- ・レファレンス事例
「ザオ・ウーキーの『北風(ミストラル)』という絵が掲載されている資料を見たい」
「池下昌徳の生没年を知りたい」
「神奈川県民ホールギャラリーで行われたイベント等がわかる資料はあるか」
「柳 宗悦全集書簡で1960年代の竹内晴二郎宛の手紙があるか」
「北島敬三(写真家)のプロフィールが『鏡頭中的東瀛:日本撮影芸術作品展』に掲載されているか知りたい」等

3) 展覧会関連資料の展示

- ・美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。

葉山館の展覧会

- 「吉田克朗展 ものに、風景に、世界に触れる」(4月20日~6月30日)
神奈川県立近代美術館編『吉田克朗』神奈川県立近代美術館、1992年
- 横浜市民ギャラリー編『創造の場所:もの派から現代へ』横浜市民ギャラリー、2016年
- 山本雅美編『吉田克朗制作ノート:1969-1978』水声社、2024年

など計67冊。

「コレクション展—斎藤義重という起点 世界と交差する美術家たち」(4月20日~6月30日)

斎藤義重『無十』水声社、2016年

神奈川県立近代美術館編『斎藤義重文庫展』神奈川県立近代美術館、2004年

国際交流基金企画・監修『ヴェネチア・ビエンナーレと日本』平凡社、2022年

など計48冊。

「石田尚志 絵と窓の間」(7月13日~9月28日)

高畠勲『十二世紀のアニメーション』徳間書店、1999年

網野奈央、森かおる編『石田尚志:渦まく光』青幻舎、2015年

国際芸術センター青森編『石田尚志:孤上の光』青森公立大

学国際芸術センター青森、2020年
など計70冊。

「栗林隆 Roots」(12月14日~2025年3月2日)

豊田市美術館編『ガーデンズ:小さな秘密の庭へ』豊田市美術館、2006年

熊本市現代美術館編『生きる場所 ボーダーレスの空へ』熊本市現代美術館、2012年

アートフロントギャラリー編『栗林隆:出部屋』アートフロントギャラリー、2019年
など計27冊。

鎌倉別館の展覧会

「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」(5月18日~7月28日)

チエーザレ・ブランディ『修復の理論』三元社、2005年

文化財保存修復学会編『文化財の保存と修復 2:博物館・美術館の果たす役割』クバプロ、2000年

渡邊郁夫『修復研究所報告 Vol.18』修復研究所21、2024年
など計44冊。

「コレクション展 ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』」(8月10日~10月20日)

ピエール・ガッシェ『ゴヤ全素描 1:8 冊の素描帖』岩波書店、1980年

ゴヤ連作全版画展カタログ編集委員会編『ゴヤ連作全版画展』読売新聞社、1985年

フランシスコ・ゴヤ『ゴヤ ロス・カプリチオス』二玄社、2001年

など計40冊。

「コレクション展 たいせつなものI 新収蔵作品展 2015~2019」(11月2日~2025年1月19日)

岡本半三『波の隣に:画家の半生』生活の友社、2012年

中野 敦『画家たちの昭和:私の画壇交流記』中央公論新社、2018年

木下 晋、城島 徹編著『いのちを刻む 鉛筆画の鬼才、木下晋白伝』藤原書店、2019年
など計66冊。

「岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑」(2025年2月1日~4月13日)

BankART1929 編『片岡純也+岩竹理恵 BankART Life V』
BankART1929、2017年

神奈川県立近代美術館編『木下翔造コレクション展』神奈川県立近代美術館、2005年

神奈川県立金沢文庫編『曼荼羅:つどうほとけたち』神奈川県立金沢文庫、2008年
など計36冊。

このほか、「夏のたね」配布期間にあわせた資料展示も行った。
「夏のたね'24 かげとであう かげをあそぶ」(7月20日~8月31日)

安野光雅『かげぼうし』富山房、1976年

藤城清治『藤城清治 影絵の世界展』藤城清治事務所、1999年

国立新美術館編『真空のゆらぎ：大巻伸嗣』求龍堂、2023年など計33冊。

4) 美術図書館横断検索

- ・2011年7月より「美術図書館連絡会（ALC）」に加盟しており、横断検索の実施や加盟館の展覧会図録の速やかな相互発送により、利用者へのサービス向上に努めている。

参考 2024年度アクセス数

検索合計（項目別・フリーワード） 105,246

トップページ 59,181

美術館紹介・広報・掲載実績等

1) 美術館紹介記事

「我が街の魅力3選 Art Museum 神奈川県立近代美術館 葉山」『湘南スタイル』2024年5月号（第19巻2号）、p.50
「（の）人がすめる、この春の過ごし方 ART ささやかな非日常を探しにアート散歩（さもゆりこさん） 神奈川県立近代美術館 葉山」『湘南タイム』2024年5月号（第27号）、pp.30-31

2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

「岡本半三《トロノーエン（ブルターニュの教会）》」『神奈川イベントカレンダー』2024年12月▶2025年2月、pp.9, 14
「[右] 俵屋宗達《狗子図》」『神奈川イベントカレンダー』2024年12月▶2025年2月、p.19
「藤牧義夫《つき》」『怪と幽 = KWAI & yoo』2024年12月20日（第18号）、p.276
Eric Ducker, Hiroshi "Yoshimura's Environmental Music Is Enchanting a New Generation", The New York Times, 2025.3.21 (2025年3月21日)
<https://www.nytimes.com/2025/03/21/arts/music/hiroshi-yoshimura-environmental-music-flora.html>

3) ホームページ閲覧数（2024年4月～2025年3月）

ホームページ訪問者数 総数 1,052,507人

参照ページ数 総数 5,347,141ページ

刊行物

1) 「夏のたね '24 かけとであう かけをあそぶ」

編集協力・デザイン：合同会社 toinoki
スタンド加工：株式会社野毛印刷
ワークシート印刷：株式会社帆風
無料配布
2024年7月18日発行



2) 2023 年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：有限会社リーヴル
印刷・製本：光村印刷株式会社
29.7×21.0cm、64ページ、特色1図、単色109図
無料配布
2024年12月26日発行

あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



3) 美術館たより『たいせつな風景』34号

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：有限会社リーヴル
印刷・製本：光村印刷株式会社
20.9×14.5cm、13ページ、多色5図、単色3図
無料配布
2025年3月30日発行
記憶としての風景（石内 都）／〈11時02分〉のある家（栗津ケン）／イサム・ノグチの『こけし』のことなど（酒井忠康）／表紙作品解説 若林 奕《足》（朝木由香）



2024(令和6)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業

—神奈川県立近代美術館の竹を編む—

太田原笙子

本プロジェクト「神奈川県立近代美術館の竹を編む」では、「竹のビルディング・ワークショップ」と「縁たけなわ広場」の二つのイベントを行った。まず、2025年3月20日(木・祝)に葉山館の竹林から切り出した竹を使って地域の子どもたちと「巨魚籠」および「しの竹の回廊」を制作する「竹のビルディング・ワークショップ」を行った。続く21日(金)～23日(日)では、「縁たけなわ広場」と称して前日のワークショップで制作した造形物の展示と、竹にまつわるワークショップや展示、カフェの出店、演奏会などを竹に関連する活動団体とともに美術館の敷地内で実施した。多くの来場者を迎えることができ、竹林の荒廃や拡大に伴い周囲の環境に悪影響を及ぼす「竹害」が問題となっている昨今、美術館にある「竹」を通して地域の環境とアートに想いを巡らす4日間となった。

共同主催：神奈川県立近代美術館、関東学院大学人間共生学部

共生デザイン学科、葉山芸術祭実行委員会

協力：特定非営利活動法人さんわーく かぐや、逗子竹活

日程：2025年3月20日(木・祝)～23日(日)

1. 竹のビルディング・ワークショップ

日程：3月20日(木・祝)

1) 巨魚籠(おおびく)

日時：①午前9時30分～午後12時30分

②午後1時30分～午後4時30分

場所：葉山館 中庭

講師：兼子朋也(関東学院大学准教授)、日高 仁(関東学院大学准教授)、朝山正和(葉山芸術祭顧問)

参加者数：① 9名、② 6名



竹のビルディング・ワークショップ「巨魚籠」

2) しの竹の回廊

時間：午前9時30分～午後12時30分

場所：葉山館 散策路

講師：駅前かぐや(さんわーく かぐや)

参加者数：22名



竹のビルディング・ワークショップ「しの竹の回廊」

2. 縁たけなわ広場

竹に関するイベントを下記の通り実施した。

日程：3月21日(金)～3月23日(日)

時間：午前9時30分～午後5時

1) 「巨魚籠」・「しの竹の回廊」の展示

日程：3月21日(金)～23日(日)

場所：葉山館 中庭(巨魚籠)、散策路(しの竹の回廊)



「巨魚籠」(兼子朋也、日高 仁、朝山正和)



「しの竹の回廊」(駅前かぐや)

2) 竹活紹介

日程：3月21日(金)～23日(日)

場所：葉山館 庭園 ※ 22日(土)は強風のため、エントランスで実施。

内容：葉山町や神奈川県内の竹に関する活動をパネルや実物で紹介した。パネルや実物は竹製の台上に展示了。



竹活紹介

3) 竹かごピクニック・カフェ By kimage cafe

日時：3月21日(金)～23日(日) 午前11時～午後4時

場所：葉山館 庭園

内容：関東学院大学人間共生学部共生デザイン学科の日高ゼミ学生がオリジナルのキッチンカーを出店した。



竹かごピクニック・カフェ By kimage cafe

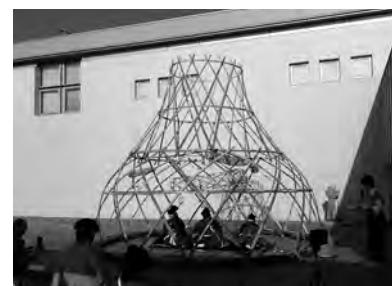
6) 雅楽演奏

日時：3月23日(日)

①午後1時～1時20分、②午後4時～4時20分

場所：①葉山館 庭園、②中庭に展示した「巨魚籠」の中

演奏者：有松 司(ひちりき)、那須康子(竜笛)、安田渉(笙)
参加者数：①約 50名、②約 40名



雅楽演奏

4) ウゲイス笛づくり

日時：3月21日(金) 午前10時～午後3時

場所：葉山館 庭園

講師：さんわーく かぐや

参加者数：55名



ウゲイス笛づくり

7) 作品のない展示室見学会

日程：①3月21日(金)、②3月22日(土)、③3月23日(日)

時間：午後3時30分～午後4時

参加者数：① 3名、② 9名、③ 21名



作品のない展示室見学会

5) 竹ひごのオーナメントづくり

日時：① 3月22日(土)

② 3月23日(日) 午前10時～午後3時

場所：葉山館 庭園

講師：逗子竹活

参加者数：① 46名、② 55名



竹ひごのオーナメントづくり

▼ラジオ：1件

- ・「湘南ビーチ FM わっしょい!葉山」(兼子朋也、太田原笙子、聞き手：香川恵子) 2025年3月4日(火)放送



チラシ 表



チラシ 裏

作品蒐集管理活動

2024(令和6)年度 購入・寄贈状況 2025(令和7)年3月31日現在

(作品)	
購入件数	3件
新規寄贈件数	54件
収蔵総件数	16,274件
(資料)	
新規寄贈件数	57件

2024(令和6)年度 寄託状況 2025(令和7)年3月31日現在

(作品・資料)	
寄託総件数	1,196件

2024(令和6)年度 新収蔵作品一覧

[凡例]

- 寸法の単位はcmである。
- 版画などのイメージ寸法と支持体寸法、および改変がある場合の前後の制作年を、それぞれ「/」で区切り記載している。
- 署名／年期は、書き込みの位置とあわせて記している。

購入

作家名	作品名(※)	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書き込み等	備考欄
素描・水彩画など								
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(1)	2004-24	色鉛筆、紙	19.6	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(2)	2004-24	インク、紙	14.4	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(3)	2004-24	インク、紙	13.9	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(4)	2004-24	インク、紙	7.9	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(5)	2004-24	インク、紙	21.1	13.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(6)	2004-24	インク、紙	8.4	8.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(7)	2004-24	インク、紙	26.2	19.7			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(8)	2004-24	インク、紙	14.2	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(9)	2004-24	色鉛筆、紙	26.0	6.7			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(10)	2004-24	インク、紙	21.2	13.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(11)	2004-24	インク、紙	19.5	26.7			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(12)	2004-24	インク、紙	5.3	4.7			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(13)	2004-24	色鉛筆、紙	24.2	10.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(14)	2004-24	インク、紙	13.6	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(15)	2004-24	インク、紙	12.9	21.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(16)	2004-24	色鉛筆、紙	9.0	24.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(17)	2004-24	色鉛筆、紙	26.2	19.8			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(18)	2004-24	インク、紙	13.0	21.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(19)	2004-24	インク、紙	21.1	13.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(20)	2004-24	色鉛筆、紙	11.0	24.4			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(21)	2004-24	インク、紙	6.0	6.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(22)	2004-24	インク、紙	26.8	19.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(23)	2004-24	インク、紙	13.0	21.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(24)	2004-24	インク、紙	5.5	4.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(25)	2004-24	色鉛筆、紙	26.0	19.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(26)	2004-24	色鉛筆、紙	8.1	24.4			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(27)	2004-24	インク、紙	26.7	19.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(28)	2004-24	インク、紙	13.6	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(29)	2004-24	インク、紙	19.5	26.7			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(30)	2004-24	インク、紙	15.3	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(31)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(32)	2004-24	色鉛筆、紙	26.1	19.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(33)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(34)	2004-24	インク、鉛筆、紙	15.1	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(35)	2004-24	インク、鉛筆、紙	13.6	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(36)	2004-24	色鉛筆、紙	24.0	37.0			

作家名	作品名(※)	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考欄
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(37)	2004-24	インク、鉛筆、紙	5.3	7.6			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(38)	2004-24	インク、鉛筆、紙	28.7	19.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(39)	2004-24	色鉛筆、紙	26.0	18.6			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(40)	2004-24	インク、鉛筆、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(41)	2004-24	インク、鉛筆、紙	19.5	26.7			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(42)	2004-24	インク、紙	13.0	21.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(43)	2004-24	インク、鉛筆、紙	14.5	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(44)	2004-24	色鉛筆、紙	9.1	24.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(45)	2004-24	インク、紙	26.3	15.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(46)	2004-24	インク、鉛筆、紙	14.5	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(47)	2004-24	インク、紙	26.2	15.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(48)	2004-24	インク、紙	9.4	9.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(49)	2004-24	色鉛筆、紙	18.4	26.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(50)	2004-24	インク、紙	26.7	19.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(51)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(52)	2004-24	インク、紙	16.0	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(53)	2004-24	色鉛筆、紙	28.2	8.9			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(54)	2004-24	インク、紙	26.8	19.6			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(55)	2004-24	鉛筆、紙	13.5	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(56)	2004-24	鉛筆、紙	26.3	15.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(57)	2004-24	色鉛筆、紙	18.2	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(58)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(59)	2004-24	鉛筆、紙	14.9	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(60)	2004-24	インク、鉛筆、紙	13.6	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(61)	2004-24	色鉛筆、紙	8.4	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(62)	2004-24	インク、紙	5.6	13.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(63)	2004-24	インク、紙	14.9	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(64)	2004-24	インク、紙	26.1	19.6			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(65)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(66)	2004-24	インク、紙	6.5	8.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(67)	2004-24	色鉛筆、紙	26.6	8.8			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(68)	2004-24	鉛筆、紙	26.2	14.9			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(69)	2004-24	インク、紙	14.0	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(70)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(71)	2004-24	鉛筆、インク、紙	15.0	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(72)	2004-24	インク、紙	7.5	18.9			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(73)	2004-24	鉛筆、紙	24.1	18.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(74)	2004-24	インク、紙	13.3	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(75)	2004-24	インク、紙	11.8	11.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(76)	2004-24	色鉛筆、紙	26.1	18.7			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(77)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(78)	2004-24	インク、紙	14.0	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(79)	2004-24	インク、紙	26.1	16.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(80)	2004-24	インク、紙	8.2	7.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(81)	2004-24	鉛筆、インク、紙	14.6	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(82)	2004-24	色鉛筆、紙	19.3	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(83)	2004-24	インク、紙	26.2	14.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(84)	2004-24	色鉛筆、紙	8.1	28.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(85)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(86)	2004-24	色鉛筆、紙	7.6	28.6			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(87)	2004-24	インク、紙	5.0	16.6			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(88)	2004-24	インク、紙	6.7	6.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(89)	2004-24	鉛筆、インク、紙	13.3	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(90)	2004-24	インク、紙	7.8	26.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(91)	2004-24	鉛筆、紙	26.2	14.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(92)	2004-24	インク、紙	26.2	14.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(93)	2004-24	インク、紙	13.0	21.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(94)	2004-24	鉛筆、紙	15.9	24.4			

作家名	作品名(※)	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考欄
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(95)	2004-24	色鉛筆、紙	26.1	18.8			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(96)	2004-24	鉛筆、インク、紙	14.0	26.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(97)	2004-24	インク、紙	19.6	26.8			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(98)	2004-24	インク、紙	13.5	26.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(99)	2004-24	鉛筆、インク、紙	14.5	26.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(100)	2004-24	鉛筆、インク、紙	26.8	19.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(101)	2004-24	鉛筆、紙	17.5	24.4			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(102)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(103)	2004-24	インク、紙	5.5	8.5			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(104)	2004-24	色鉛筆、紙	26.6	8.2			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(105)	2004-24	インク、紙	13.0	21.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(106)	2004-24	インク、紙	14.0	26.3			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(107)	2004-24	インク、紙	21.1	13.0			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(108)	2004-24	インク、紙	13.0	21.1			
小金沢健人	「ドローイング／シネマ」の素描(109)	2004-24	インク、紙	4.1	4.4			

素描・水彩画など

アオトヒデキ	E-2407	2024	鉛筆、紙	181.8	227.3	5.0	第59回神奈川県美術展 神奈川県立近代美術館賞
--------	--------	------	------	-------	-------	-----	----------------------------

油彩画・アクリル画など

五十里雅子	Laminando	2024	油絵具、和紙(パネル貼り)	161.6	130.3	3.5	第63回神奈川県女流美術家 協会展 神奈川県立近代美術 館賞
-------	-----------	------	---------------	-------	-------	-----	--------------------------------------

寄贈

〈エサシトモコ氏寄贈〉

エサシトモコ	蛾の女	1999	木、漆、金箔、顔料	90.4	57.0	38.0	
--------	-----	------	-----------	------	------	------	--

〈岡崎厚子氏寄贈〉

岡崎和郎	ドクロ	1980年以降	キャンバス、木、塗料	47.5	60.0	4.7	
岡崎和郎	HISASHI	1993	木、紙粘土に彩色	6.5	94.0	17.0	
岡崎和郎	黒い雨	1995	ガラスにシルクスクリーン、木	68.0	60.0	8.5	
岡崎和郎	黒い雨	1995	ガラスにシルクスクリーン、木	68.0	60.0	8.5	
岡崎和郎	黒い雨によせて	1995-97	ブロンズ、ガラス	39.3	59.3	49.3	
岡崎和郎	A Hand	2006	石膏	6.0	22.0	22.0	
岡崎和郎	心棒	2018	溶岩、アクリル、樹脂、金属棒、塗料	86.0	25.0	25.0	

〈加藤 薫氏寄贈〉

加藤清美	子供のためのテスタメント	1973	油絵具、板	左49.5; 中49.5; 右49.5	左17.5; 中38.5; 右17.5		三連画
加藤清美	戴冠	1983	油絵具、板	61.5	46.6		下辺右下:Kiyomi Kato
加藤清美	戯れのロンド	1986	油絵具、板	83.0	68.0		下辺右下:Kiyomi Kato

〈加納光於氏寄贈〉

版画(日本)							
加納光於	イカルス I	1958	エッチング、紙	32.6/40.2	24.5/30.3		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano
加納光於	燐と花と	1959	インタリオ、紙	36.4/45.2	27.7/33.4		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano
加納光於	燐と花と	1959	インタリオ、紙	36.2/45.5	27.2/35.9		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano
加納光於	燐と花と	1959	インタリオ、紙	36.2/45.9	26.6/35.7		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano
加納光於	焰・髪 I	1959	インタリオ、紙	27.5/37.4	25.5/32.5		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano
加納光於	焰・髪 II	1959	インタリオ、紙	27.8/43.0	25.7/35.5		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano
加納光於	燐と花と	1960	インタリオ、紙	42.0/57.0	35.5/42.1		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano
加納光於	流れのなかで A	1960	インタリオ、紙	42.0/56.5	35.4/40.6		左下:ep. d'artiste 右下:M.Kano

〈川口祥子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など							
川口起美雄	メランコリィ	1976	テンペラ絵具、油絵具、板	30.3	21.4		左下:Kawaguchi '76

作家名	作品名(※)	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考欄
〈酒井忠康氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
浜田知明	晩年	1999	ブロンズ	32.0	17.0	11.5		
宮崎 進	苦惱	1960年頃	石膏	19.4	15.2	14.4		
油彩画・アクリル画など								
吉田克朗	蜜	1999	パステル、アクリル、蜜蝋、紙	23.6	19.0			
〈寺村祐子氏寄贈〉								
工芸								
寺村祐子	陽春	2001	絹紬糸、絹絣、昼夜織	530.0	82.0			
〈直野宣子氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
中西夏之	中央の速い白 XXI	1990	油絵具、木炭、カンヴァス	227.0	290.0			
中西夏之	中央の速い白 XXII	1990	油絵具、木炭、カンヴァス	227.0	290.0			
彫刻・インスタレーション								
中西夏之	二ツの環	1982	金属	ø 370.0				
中西夏之	着陸と着水	1995	棹秤、ペアリング・ボール、ホワイトモランダム、布	720.0	585.0	16.0		
中西夏之	紗幕孔穿	1996	紗幕、アルミフレーム	各420.0	各310.0			
中西夏之	二箇所	2003	寒冷紗、木枠、ホワイト・モランダム、鋼球、棹秤、可変リキテックス					
〈中尾太郎氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
中尾 誠	バラ色のレクイエム	1980	油絵具、カンヴァス	15.8	22.7		右下:M Nakao.	
中尾 誠	めざめ(甦る 蘇る)	1981	油絵具、カンヴァス	15.8	22.7		右下:'81 M Nakao	
中尾 誠	二月の光(タンポポ)	1983	油絵具、カンヴァス	27.0	22.0		左下:'83 M. Nakao	
〈長谷川双葉氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
長谷川春子	樺色の印象	1932	油絵具、カンヴァス	150.0	75.3		裏面:HARUKO. HASEGAWA.1932/千九百 卅二年 長谷川春子	
〈羽太はつ子氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
久米民十郎	スケッチブック 2	1914-23	鉛筆、インクほか、紙	29.5	38.0		表面上部:TAMI M KOUME	
久米民十郎	スケッチ 1	1914-23	鉛筆、紙	8.7	11.0			
久米民十郎	スケッチ 2	1914-23	鉛筆、紙	11.0	8.7			
久米民十郎	スケッチ 3	1914-23	鉛筆、紙	11.0	8.7			
久米民十郎	スケッチ 4	1914-23	鉛筆、紙	11.0	8.7			
久米民十郎	スケッチ 5	1914-23	鉛筆、紙	11.0	8.7			
久米民十郎	スケッチ 6	1914-23	鉛筆、紙	11.0	8.7			
久米民十郎	正喜の像	1919	鉛筆、紙	36.6	28.4			
〈藤田 修氏寄贈〉								
版画(日本)								
藤田 修	《Water》屏	2022	活版印刷、紙	26.8	53.8		ed.8/12、製版協力:雷文庫、 発行: FUJITA GRAPHICS IKENOHATA STUDIO	
藤田 修	《Water》Sea	2022	フォトポリマー・グラ ヴュール、ドライボイン ト、紙(雁皮紙刷り)	26.0	53.2		左下: 8/12 中下: sea 右下: O.Fujita '22、エン ボススタンプ「OSAMU FUJITA ORIJINAL PRINT」	
藤田 修	《Water》Fountain	2022		26.3	53.3			
藤田 修	《Water》Hill	2022		25.5	53.8			
藤田 修	《Water》Seine	2022		26.6	53.5			
藤田 修	《Water》Thames	2022		25.8	53.6			
藤田 修	《Water》Riverside	2022		26.5	53.7			
藤田 修	《Water》Forest	2022		26.0	53.7			

作家名	作品名(※)	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考欄
<三井 弦氏寄贈>								
油彩画・アクリル画など								
中澤弘光	雪の温泉場	1915	油絵具、カンヴァス	45.5	33.5		右下: Hiromitsu Nakazawa 1915 厚紙裏面に三井弦氏による 書き込みあり	
中澤弘光	久米寺多宝塔	1934	油絵具、板	27.0	21.2		画面右下: 判読不明 裏面: 久米寺多宝塔 中澤	
中澤弘光	舞妓C	1953	油絵具、カンヴァス	60.7	50.0		左上: Hiromitsu Nakazawa 裏面: 昭和廿八年秋於松華 樓 中澤画	
素描・水彩画など								
中澤弘光	自画像	1902	鉛筆、水彩絵具、紙	18.7	13.4		右中央: 弘 1902	
中澤弘光	清水寺	1917	水彩絵具、鉛筆、紙	48.0	33.0		右下: Hiromitsu Nakazawa 1917	
中澤弘光	少女静思	1944	水彩絵具、鉛筆、紙	46.3	33.0		裏面に三井弦氏による書き 込みあり	
中澤弘光	仏都寧楽 下図	1955	パステル、紙	47.4	31.5		裏面: 中澤弘光筆 昭和 三十年 パステル 日展出 品作「仏都寧楽」エスキース 三井弦記	
<山口啓介氏寄贈>								
版画(日本)								
山口啓介	Calder Hall Ship - Enola Gay ²	1994	エッチング、樹脂、植物、紙	193.9	259.1			
<柚木沙弥郎氏寄贈>								
彫刻・インスタレーション								
セカル, ズビニエク	無題	1980年頃	ブロンズ	45.7	10.8	7.4		
セカル, ズビニエク	形体	1990	ブロンズ	36.8	20.5	18.0		
<綿貫令子氏寄贈>								
版画(日本)								
吉田克朗	Work "46"	1975	リトグラフ、紙	44.8/65.6	29.3/50.4		左下: Work "46" 右下: 89/100 Katsuro Yoshida 1975	
関連資料								
<羽太はつ子氏寄贈>								
久米民十郎	エーミール・フックス宛封筒	1910年代	インク、紙	11.9	18.4			久米民十郎旧蔵資料(以下同)
久米民十郎	アルバム	1914-23	写真、紙	11.6	16.7			
久米民十郎	エズラ・パウンド宛書簡(複写)	1916-22	印刷、紙	29.7	21.0			
久米民十郎	《Madame Karina》(作品絵はがき)	1918	印刷、紙	14.0	9.1			文展第十二回出品
久米民十郎	《The Mistery》(作品絵はがき)	1918-22年頃	印刷、紙	14.3	9.1			
久米民十郎	《Madame Astafieva in Aee Maria》(作品絵はがき)	1918-22年頃	印刷、紙	14.0	9.1			
久米民十郎	《富者の悲》(作品絵はがき)	1919	印刷、紙	14.0	9.1			帝展第一回出品 2枚
久米民十郎	久米民十郎(名刺)	1919-20	印刷、紙	4.4: 7.9	8.4: 4.6			2種5枚
久米民十郎	『Paintings by Tami Kume 1920』(個展冊子、帝国ホテル)	1920	印刷、紙	14.3	16.4			
久米民十郎	個展案内状(帝国ホテル)	1920	印刷、紙	11.7	27.2			
久米民十郎	今津静之助宛個展案内状(帝国ホテル)	1920	印刷、墨、紙	11.7	27.3			
久米民十郎	Tami M Koumé(名刺)	1920年頃	印刷、墨、紙	6.1	8.2			
久米民十郎	Tami M Koumé(名刺)	1923年頃	印刷、紙	4.7	8.9			
久米民十郎	出品表1	制作年不詳	印刷、インク、紙	8.9	16.4			
久米民十郎	出品表2	制作年不詳	印刷、インク、紙	8.9	16.4			
久米民十郎	出品表3	制作年不詳	印刷、インク、紙	6.7	8.9			
久米民十郎	『The Society of Independent Artists, Inc.』(規約)	1921	印刷、紙	27.8	21.8			
久米民十郎	『The Society of Independent Artists, Inc.』(会員証)	1921	印刷、インク、紙	8.1	15.3			
久米民十郎	『The Society of Independent Artists, Inc.』(出品表)	1921	印刷、インク、紙	8.9	22.9			出品作品名《Meditation》
久米民十郎	『The Art of Tami Koumé』(Kingore Galleries) (目録)	1921	印刷、紙	23.1	15.2			
久米民十郎	久米民十郎(死亡証明書類)	1923	インクほか、印刷、紙	26.8	19.0			3種
久米民十郎	久米民十郎文献資料一式	1976年ほか		25.8ほか	15.1ほか			

作家名	作品名(※)	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考欄
伊藤道郎	「Michio Itow and Sonia Serova」(プロ グラム)	1920	印刷、紙	28.2	15.4			
代々木住人	「洋画家久米氏の靈媒画と高尾山の若き女靈能者」(雑誌切り抜き)	1920	印刷、紙	21.8	14.9			
Frederick W.Eddy	「News of the art world」	1921-23	印刷、紙	39.2	13.5			
撮影者不明	エーミール・フックス《久米民十郎の頭像》(写真)	1915-20	写真、紙	23.6	18.6			
撮影者不明	久米民十郎婚礼写真	1918年頃	写真、紙	12.7	8.9			
撮影者不明	久米民十郎婚礼写真	1918年頃	写真、紙	12.7	8.9			
撮影者不明	久米民十郎婚礼集合写真	1918年頃	写真、紙	8.9	12.7			
撮影者不明	絵のモデルとなった女性(写真)	1919年頃	写真、紙	20.6; 6.1	15.8; 4.0			
撮影者不明	伊藤道郎公演(写真)	1920	写真、紙	17.3	12.5			
撮影者不明	春洋丸(写真)	1920	写真、紙	8.6	12.4			
撮影者不明	着物《鹿》を着た喜代と満2歳の正喜(写真)	1921	写真、紙	13.1	8.5			
撮影者不明	久米民十郎ほか(写真)	1923	写真、紙	7.6	7.4			
撮影者不明	久米民十郎(写真)	1923年頃	写真、紙	10.7	7.4			
筆者不明	「From Lucan and Juvenal to Ezra Pound」(The New York Times Book Review and Magazine)	1921	印刷、紙	42.2	28.0			
筆者不明	「Portraits Interiors, "States of The Soul"」	1921-23	印刷、紙	48.2	11.3			
筆者不明	「Man Who Paints "Soul Portraits."」(The Daily Mirror)	1921	印刷、紙	37.5	30.2			
筆者不明	「The Art of Tami Koumé Kingore Galleries 668 Fifth Ave.」(個展広告)	1923	印刷、紙	7.3	5.6			
	『Henri Matisse Exhibition』(Montross Gallery)	1915	印刷、紙	23.2	15.2			
	『Sculptures by John Mowbray-Clarke: shown at the Kevorkian Galleries....』(Kevorkian Galleries)	1919	印刷、紙	24.2	16.2			
	『John Storrs』(Folsom Galleries) (カタログ)	1920	印刷、写真、紙	14.1	10.9			
	『Alfred Wolmark』(Kevorkian Galleries) (カタログ)	1920	印刷、紙	24.2	16.2			
	『Metropolitan Opera House Grand Opera Season 1920-1921』(プロ グラム)	1920	印刷、紙	25.1	17.3			
	『Libret "Carmen"』(Metropolitan Opera House Grand Opera Season) (リーフレット)	1920	印刷、紙	25.5	17.4			
	『Libret "AIDA"』(Metropolitan Opera House Grand Opera Season) (リーフレット)	1920	印刷、紙	25.5	17.4			
	『Presents the Works of Matisse, Gris, Derain, Picasso, Braque, Rivera, Gleizes, Villon』(Société Anonyme, Inc., Museum of Modern Art) (リーフレット)	1920-21	印刷、紙	16.1	8.5			
	『Its Why & Its Wherefore』(Société Anonyme, Inc., Museum of Modern Art) (リーフレット)	1920年頃	印刷、紙	16.3	25.4			
	『Alexander Archipenko』(Société Anonyme, Inc., Museum of Modern Art) (リーフレット)	1921	印刷、紙	15.9	8.6			
	『The Quill, vol.8, no. 2』	1921	印刷、紙	17.7	15.4			
	『National Academy of Design, Ninety-Sixth Annual Exhibition』(案内)	1921	印刷、紙	26.7	20.2			
久米民十郎	拔刷 児玉実斎「エズラ・パウンドと東洋」	1980年		18.2	12.4			
久米民十郎	角田史郎著作関連資料(拔刷、複写資料、手紙、写真)	1983年以降		25.8	15.1			
久米民十郎	複写資料 高田美一「エズラ・パウンドと跡見家の奇縁」(跡見学園女子大学英文学科報)	1986年		20.4	13.7			
〈中村慎太郎氏寄贈〉								
若林 奎	《7.28- 8.23 クロバエ上の変更》のためのスケッチ	1969	鉛筆、インク、紙	34.7	28.0			
若林 奎	宇部市野外彫刻美術館宛書簡	1969	インク、紙	24.9	17.8			
若林 奎	《多すぎるのか、少なすぎるのか?》のためのスケッチ	1970	鉛筆、インク、紙	20.9	15.0			
〈三井 弦氏寄贈〉								
不詳	中澤弘光肖像写真	1950年代	写真、紙	30.2	25.2			
土方定一	中澤弘光宛書簡	1961	インク、紙	24.8	17.6			

館外貸出作品一覧

開催初日が 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの展覧会に限る
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名/作品名	「展覧会名」会場
1	1~2	堀 文子《初秋》、《霧氷》	「没後5年 いのちの鼓動を描く—日本画家・堀文子」佐野美術館 (4月20日~6月9日)
2	3~5	内田あぐり《女人群図—II》、《アリ座像》、《残丘》	「内田あぐり 沔 Fluxes」浜松市秋野不矩美術館(4月27日~6月23日)
3	6	上村松菴《杜若》	「文化勲章 三代の系譜 上村松園・松菴・淳之」松柏美術館(5月18日~7月15日)
4	7~10	山口蓬春《御堂供養》、《模写・法華経冊子》、《模写・佐竹三十六歌仙》、《模写・源氏物語 御法》	「山口蓬春記念館 夏季企画展(後期)蓬春と源氏絵—受け継がれるみやび」山口蓬春記念館(8月10日~9月23日)
5	11~16	第3回シェル美術賞展より紙焼き写真、目録、ポスター、第4回シェル美術賞展より目録、出品票、応募作品預証、作家略歴、ポスター	「開館30周年記念 生誕100年記念 深沢幸雄展—彫版に依って歌う詩人」佐倉市立美術館(8月10日~9月29日)
6	17~25	浅井 忠『従征画稿』第二集(青木文庫)、山本芳翠《馬頭衛》、ルドン、オディロン『ゴヤ頌』より「表紙」、「1. 夢の中で天に神秘の顔を見た」、「2. 沼に咲く花 悲しそうな人間の顔」、「3. 陰気な景色の中の狂人」、「4. 胎児のようないい在りもいた」、「5. 不思議な吟遊詩人」、「6. 目覚めた時 厳しくおごそかな顔立ちの御知の女神を見た」	「PARALLEL MODE: オディロン・ルドン—光の夢、影の輝き—」岐阜県美術館(9月27日~12月8日)
7	26~34	堀内正和《海辺》、ノグチ、イサム《広島原爆慰靈碑のためのマケット》、三上誠《湿地 A》、山口蓬春《宴》、堀内正和 旧蔵資料より「日誌 昭和廿年七月」、「日記 昭和十五年八月から昭和十六年八月まで」、「日誌 昭和十九年一月から昭和廿年七月まで」、イサム・ノグチ展より目録(2枚組)	「ハニワと土偶の近代」東京国立近代美術館(10月1日~12月22日)
8	35~36	松谷武判《接点2009》、《空》	「松谷武判」東京オペラシティ アートギャラリー(10月3日~12月17日)
9	37~42	鶴光《鶯と鶴鳥》、《警察病院》、麻生三郎《女》、鶴岡政男《死の静物(松本竣介の死)》、原 精一《語らい》、松本竣介《建物》	「無言館と、かつてありし信濃デッサン館—鶴島誠一郎の眼」静岡県立美術館(10月12日~12月15日)
10	43~64	柚木沙弥郎《萌》、《トコ》、《グーグー》、《キキ》、《夜の絵》1~16、《雛女房》上、下	「柚木沙弥郎 永遠のいま」岩手県立美術館(10月19日~12月22日)・岡山県立美術館(2025年2月14日~3月23日)・島根県立美術館(4月18日~6月16日)・静岡市美術館(8月16日~10月13日)・東京オペラシティアートギャラリー(10月24日~12月21日)
11	65~78	デューラー、アルブレヒト《ヨハネ黙示録》より「龍と闘う大天使ミカエル」、「太陽の女と7つの顔をもつ龍」、「天に昇るヨハネ」、ブリューゲル、ビーテル「賢い処女とおろかな処女」、「モブスとニサの結婚」、「大風景画」より「休息する兵士たち」、「七つの大罪」より「貪欲」、「貪食」、「七つの徳」より「節制」、「剛毅」、「希望」、「正義」、ベーハム、ハンス・ゼーバルト《地獄のケルベロスを抑え込むヘラクレス》、「アダムとイヴ」	「奇想の版画 1500—1650 帝都プラハを交差するヨーロッパ版画」郡山市立美術館(11月9日~12月27日)
12	79~83	寄託作品5点	「没後100年 中村録展—アトリエから世界へ」茨城県近代美術館(11月10日~2025年1月13日)
13	84~94	飯田善國《彫刻のためのデッサン(1)》、《彫刻のためのデッサン(2)》、《彫刻のためのデッサン(3)》、《彫刻のためのデッサン(4)》、《彫刻のためのデッサン(5)》、《HITO I》、《HITO II》、《HITO III》、《壁から離れゆく胴体》、《存在》、寄託作品1点	「飯田善國展—色は光、光はことば—」足利市立美術館(11月16日~12月26日)
14	95~98	青山義雄《海辺の輪舞》、《ゴロワーズを吸う自画像》、《パルテノン》、《アトリエの自画像》	「生誕130年 青山義雄とその時代」茅ヶ崎市美術館(12月14日~2025年2月24日)
15	99	清水登之《映画館》	「没後80年 清水登之」栃木市立美術館(2025年1月11日~3月20日)
16	100	アルブ、ジャン《影のモニュマン》	「ル・コルビュジエ 諸芸術の総合 1930-1965」パナソニック汐留美術館(2025年1月11日~3月23日)
17	101~106	山口蓬春《天皇の世紀》より1、6、9、11、13、19	「大佛次郎と山口蓬春—時代を描いた小説家・画家」山口蓬春記念館(2025年2月1日~3月30日)
18	107	松本竣介《Y市の橋 // 甲州街道沿い》	「横浜美術館リニューアルオープン記念展 おかえり、ヨコハマ」横浜美術館(2025年2月8日~6月2日)
19	108~111	片岡球子《面構 足利尊氏》、《面構 足利義政》、加山又造《凍る日輪》、中村正義《ビエロ》	「中村正義—その熱と渦—」豊橋市美術博物館(2025年2月22日~3月30日)・平塚市美術館(4月12日~5月18日)・奈良県立美術館(5月31日~7月6日)

当館を含む巡回展への貸出作品

1	1~8	吉田克朗《Work "9"}、《触 "鳥-T9"}、《触 "鳥-T10"}、《触 "鳥-T12"}、《Work》、《触 "体-190A & B"}、《触 "春に" VI》、《触 "春に" V》	「吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる」神奈川県立近代美術館 葉山(4月20日~6月30日)・埼玉県立近代美術館(7月13日~9月23日)
---	-----	--	---

2024(令和6)年度 館外画像貸出・作品資料特別閲覧状況 2025(令和7)年3月31日現在

画像貸出

貸出件数	34件
作品・資料点数	53件

特別閲覧

閲覧件数	24件
作品・資料点数	175件

修復報告 1

増田絵画修復工房 増田久美

作 者：足立源一郎

作 品 名：エギュイ デュ ドリュ

制 作 年：1861 年

材 料・技 法：油彩、カンヴァス

寸 法(mm)：作品：730 × 606 (修復前後の変更なし)

額：935 × 810 (修復前後の変更なし)

修復前の所見

ペインティングナイフを多用した塗り重ねによって描画されており、鋭く尖った岩峰や雜木林はペインティングナイフのエッジを使った突起により表現されている。ワニスは塗布されておらず油絵具自体の光沢もほとんどみられなかった(図 1)。

画面は全体的に薄く汚れが付着しており、空の青色絵具部分には暗褐色の斑点状のしみが多数生じ鑑賞の妨げとなっていた。ペインティングナイフを多用して描画された岩峰部分は絵具層間の固着が非常に弱く剥離しやすい状態であった。下辺には地塗り層を含む絵具層の浮き上がり、剥落が多数生じ粉状化している部分もあった(図 3)。

支持体はフナオカ製の白色地塗り麻布カンヴァスで、木枠にはカンヴァス用の釘で固定されていた(図 2)。たるみや変形はなく全体的な張り具合は良好であったが、下辺の張り代の固定釘は錆びて劣化していた。明確な冠水等の跡はみられなかったことから、おそらく作品が床置きで立てかけられて保管されていた間に、下方からの湿気によって地塗り層を含む絵具層の損傷が引き起こされたものと考えられた。

木枠は中棟が水平方向に1本入った「日の字」型で楔及び楔穴はなかった。変形や破損はなく状態は良かった。黒色の油性ペンで上枠に「Aiguille du Dru à Montenvers」、右枠に「エギュイ・デュ・ドリュ シャモニー モンタンペールにて 足立源一郎」と書き込みがあった(図 2)。

額は下辺に塗料の浮き上がり、剥落が集中して生じていた。入れ子が作品寸法よりやや大きく、作品上辺の余白が露出していた他、深さが作品の厚みより浅いため、裏蓋のベニヤ板で作品を押さえつけるようにして入れ子に釘で固定されていた。ベニヤ板は撓んでおり固定していた釘は錆びて劣化していた(図 1)。

修復処置

1. 作品の状態を調査し、修復処置前後と処置途中の状態を撮影、記録した。
2. 膠水(チョウザメ膠 5%)を接着剤として使用し、地塗り層と絵具層の浮き上がり、剥落箇所を電気コテで加温接着した(図 4)。粉状化して固着状態が悪い岩峰の濃青色絵具部分は、レーヨン紙を当てた上から膠水を含浸し、電気コテで加温接着して強化した。レーヨン紙は水で湿らせて除去し、表面に膠が残らないように水を含ませた綿棒で拭き取った。
3. 柔らかい羊毛刷毛で表面の埃を軽く払った後、コットンまたは綿棒に希アンモニア水を含ませ、暗褐色の斑点を含む画面の汚れを除去した。(図 5)。

4. カンヴァスの張り具合は良好であったことから、木枠から取り外すさずに裏面の清掃作業等を行なった。但し、下辺の張り代の固定釘は錆びて周囲のキャンバスを劣化させる原因となっていたため、全て取り外してステンレス製ステープルで固定し直した。他の三辺の張り代は元の固定釘の状態は良好であったが、固定間隔が開きすぎてカンヴァスの弓張り変形を起こすことが考えられたため、ステンレス製ステープルで固定箇所を増やした。カンヴァスの裏面に付着した埃を豚毛の刷毛で掃き出しながら掃除機で除去し、木枠と裏面を軽く水拭きした後、イソプロパノール水(容量比 7:3)で拭き清めて殺菌した。
5. 下塗り層と絵具層の欠損部分に水溶性の白色充填材(Stucco per Restauro, Zecchi)を充填し、周囲のマチエールに合わせて整形した(図 6)。
6. 周囲の色彩に合わせて充填部分に透明水彩絵具で補彩を施した後、防黴剤(チアベンダゾール)を加えたダンマルワニス(5%)を塗布し周囲合わせて光沢を整えた(図 7、8)。
7. 額のレリーフの剥落部分をアクリルエマルジョン接着剤(AC223 1 ~ 3%)で接着強化し、白色の地塗りが露出している部分は茶褐色の下塗り塗料に合わせ水彩絵具で補彩を施した(図 8)。既存のドロ足は取り外し、新たに作品の厚みに合わせて入れ子の外回りにドロ足を取り付けた。その際、取り付け位置をやや内側に調整して、画面の余白が露出しないように作品を額に設置できるようにした。裏蓋のベニヤ板はポリカーボネート製コルゲート板に交換した。ベニヤ板に添付されていたラベルは、剥がして和紙と生麩糊で裏打ちし、木枠に木ねじで取り付けた。吊り金具は新しい泥足の高さに合わせた木板を取りつけ再使用した(図 9)。

修復後の所見

作品は地塗り層と絵具層の浮き上がりや剥落、固着不良部分を接着、強化したことにより安定した状態となった。また、下辺部分の描画が明瞭になった。画面全体の汚れを除去し、茶褐色の斑点を鑑賞の妨げとならない程度まで軽減したことで、雪山の白色と濃青色の対比や、青空に奥行きが感じ取れるようになった。

額のレリーフ塗料の剥落を接着強化し、作品の厚みに合わせて新たにドロ足を取り付け、裏蓋を透明なポリカーボネート製コルゲート板に交換したことにより、作品の安全な取り扱いと保管ができるようになった。



図1. 修復前 表 額装



図2. 修復前 裏 額装(裏蓋取り外し後)



図3. 修復前 部分 地塗り層および絵具層の浮き上がり、剥落



図4. 修復中 浮き上がり接着作業



図5. 修復中 洗浄作業



図6. 修復中 部分 剥落箇所の充填整形後(白く見えているのが充填箇所)



図7. 修復後 部分 補彩後



図8. 修復後 表 額装



図9. 修復後 裏 額装

修復報告 2

伊藤由美

作 者：加山四郎

作 品 名：カルティエ・ラタン

制 作 年：1933 年

材料・技法：油絵具、カンヴァス

寸法(mm)：作品：修復前 795 × 1002

修復後 805 × 998

額：修復後 838 × 1034

修復前の所見

支持体は、木枠から外された状態で長期間保管されていたため、不定形の変形が広範囲に生じている(図1～4)。特に空部分の変形が著しいが、この変形は空と建物の輪郭に沿って生じていることから、絵具層の厚みと描写時期の違いから生じていることが示唆される。つまり、時期を隔てて、広範囲に及ぶ描き直しあるいは加筆があったと思われる。絵具層の固着は概ね良好であるが、下層に別の絵具層がある個所や、支持体の変形部に層間剥離及び地塗りからの剥落が複数認められる。

全面にわたり汚れの付着があり、塗布されたワニスは黄変が著しい。特に空部分は汚れとワニスの黄変が鑑賞の妨げとなっている。

修復処置

- 裏面の清掃、殺菌：裏面の埃を除去し、エタノールで拭いて殺菌をした。
- 支持体の変形修正：支持体周辺部に、帯状の麻布をホットメルト型接着剤 BEVA371 で接着して張りしろの補強をすると共に、仮張り用の張りしろとした。伸張式の仮張り枠に張り込み、日数をかけ少しづつ枠全体を拡げて支持体の変形を修正した。空の部分は局所的な強い変形が複数見られ、仮枠の一律な伸張だけでは修正しきれないため、和紙と正麁糊で画面保護を施した後、裏面から湿気を与え、アイロンで緩やかに加温、加圧をしながら部分的な変形修正を行った。変形修正後に画面保護の和紙を除去した。
- 剥落部の絵具強化：剥落部周辺に膠水溶液をさして、ここで加温加圧しながら強化を行った。
- 画面の洗浄：表面の汚れを希アノニア水で除去した。
- ワニスの軽減：エタノールとアノニア水の混合液でワニスを軽減し、同時に汚れも除去した(図5)。
- 木枠張り込み：新調した楔付き木枠に支持体を張り込んだ。楔は落下防止のため、テグスとステンレスピンで木枠に固定した(図8)。
- 剥落箇所の充填：剥落箇所にボローニヤ石膏と膠水を混ぜた充填剤で充填し、周辺部の絵具層に合わせて整形を行った(図6)。
- 補彩：充填箇所を溶剤型アクリル絵具で補彩した(図7)。
- 額縁装着：新調した額縁を取り付け、裏面保護のため段ボール構造のポリプロピレン製板のサンプライを用いて裏板を装着した(図9～10)。

修復後の所見

当初、木枠に張られておらず、支持体の変形や画面の汚れが鑑賞を妨げていたが、変形がなくなり、画面が洗浄されたことで色彩にメリハリが感じられ、町の空間を読み取れるようになり作品として鑑賞しやすくなった。また、木枠に張ることで絵具層が平面を維持できるようになったので、保存上の問題も改善された。



図1. 修復前 表



図2. 修復前 表(側光)

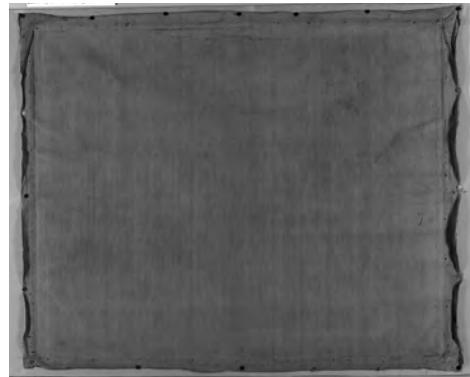


図3. 修復前 裏



図4. 修復前 裏(側光)



図5. 修復中 洗浄途中 右上部が洗浄前、周辺は張りしろ補強布



図6. 修復中 充填整形



図7. 修復後 表

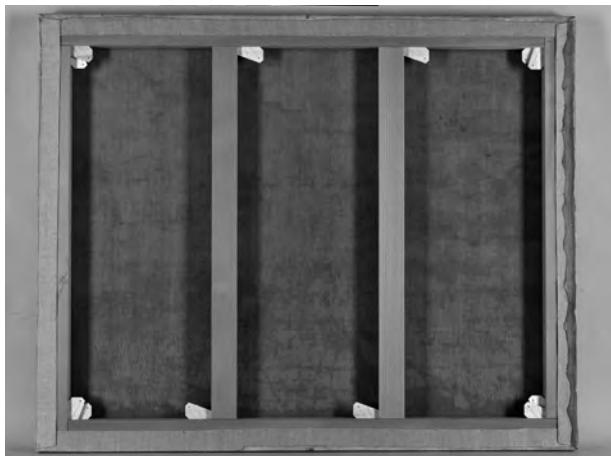


図8. 修復後 裏



図9. 修復後 額付き 表

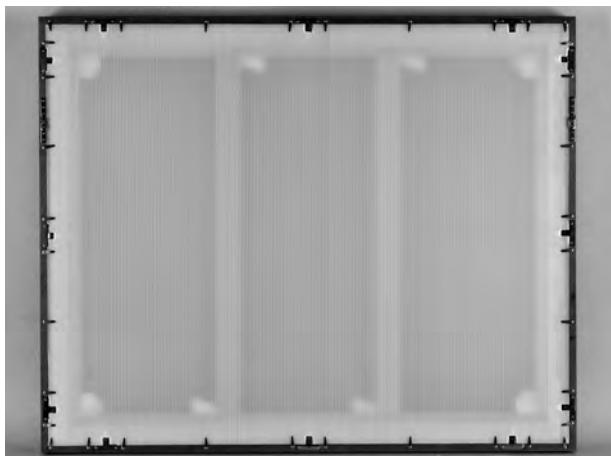


図10. 修復後 額付き 裏

修復報告 3

橋口由依

作 者：ホルスト・ヤンセン

作 品 名：湿原の第一理論

制 作 年：1988 年

材 料・技 法：エッチング、アクアチント（2 版 2 色刷り）、和紙

寸 法 (mm)：修復前 711 × 596

修復後 711 × 591

修復前の所見

本作は 2023 年度に当館へ寄贈された。受贈時には額装されていたが、作品とマット紙の全体に黄褐色の点状の染みが生じていたため、額縁を外して染みの軽減処置を行うことにした。支持体は厚み 0.16mm 程度の「紙舗 直」による手漉き和紙で、青みのある黒色と紫色の 2 色で刷られている。マット紙の作品が触れていた部分が黄変し、支持体も若干黄色味を帯びていたことから、支持体自体の酸化が進行していると考えられた（図 1、2）。修復前の pH は 5～6 だった。

修復処置

1. 加湿 作品に用いられているインクが非水溶性であることを確認した後、脱酸処置の準備として作品に加湿した。精製水を含浸した吸いとり紙の上にポリエステル製の不織布を敷き、その上に画面を下にして作品を寝かせた。作品の裏面から精製水を噴霧し（図 3）、不織布とビニールをかけて作品に水分が浸透するのを待った。
2. 脱酸処置 加湿した作品を不織布で挟んだまま裏返し、水酸化マグネシウム水溶液を含浸させた吸いとり紙の上に重ねた。作品を刷毛でそっと押さえ、吸いとり紙に密着させた（図 4）。ビニールを被せてしばらく時間をおき、これを 3 度繰り返した（図 5、6）。
3. 水洗 精製水を含浸させた吸いとり紙の上に、不織布で挟んだ作品をのせ、ビニールを被せた。これを 3 度繰り返した後に pH を測定したが、修復前と変化がなかったため、精製水を含浸させた吸いとり紙の上に不織布で挟んだ作品をのせ、画面側から精製水を噴霧することで再度水洗を行った。
4. プレス 作品の両面に吸いとり紙とポリエステル不織布を重ね、ガラス板で挟み、重しをのせて加圧した（図 7）。作品が乾ききるまで、吸いとり紙を交換した。
5. 染み抜き 黄褐色の点状の染みに対して、水素化ホウ素ナトリウム水溶液を用いて局所的に染み抜きを行った（図 8）。

修復後の所見

pH は改善されなかったものの、支持体の黄色味は軽減され画面全体が明るくなった。鑑賞の妨げとなっていた点状の染みも目立たなくなったり（図 9、10）。今後はシート状で保管し、展示する際は当館の汎用額を用いることにした。



図1. 修復前 表

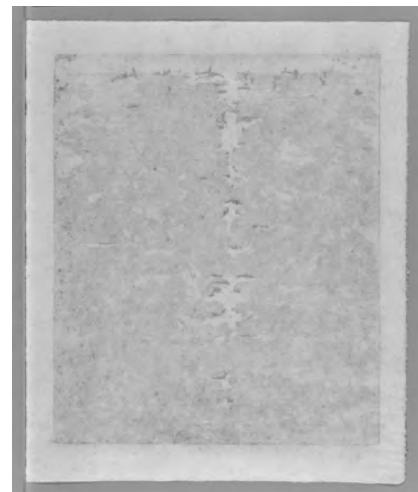


図2. 修復前 裏



図3. 修復中 作品の加湿



図4. 修復中 脱酸処置



図5. 修復中 脱酸処置



図6. 修復中 脱酸処置後の吸いとり紙
作品の汚れが滲み出している

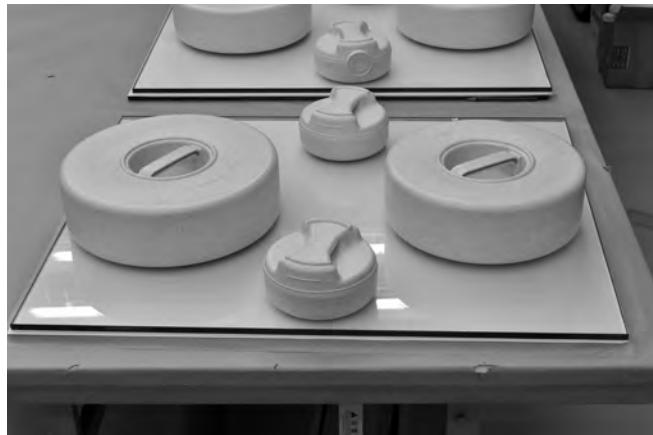


図7. 修復中 プレス



図8. 修復中 染み抜き



図9. 修復後 表

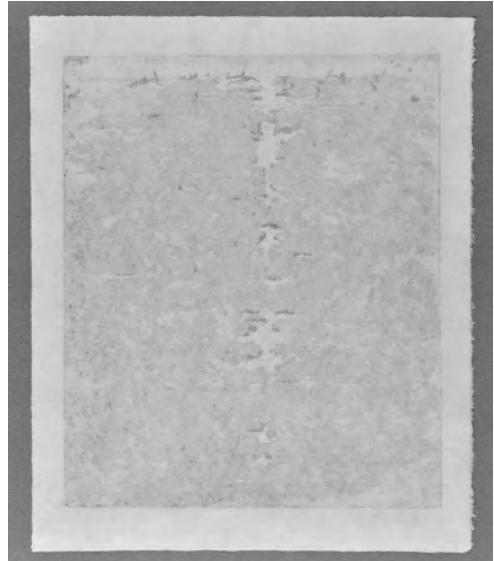


図10. 修復後 裏

2024(令和6)年度 修復作品一覧

〔凡例〕

- 寸法の単位はcmである。イメージ寸法と支持体寸法がある場合は「/」で区切って記載した。
- 修復担当の記載のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員 伊藤由美と修復担当学芸員 橋口由依が行った。

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	修復担当
油彩画・アクリル画など							
青山義雄	家鴨の葬式	1925年頃	油絵具、カンヴァス	60.6	72.7		
麻生三郎	女	1943	油絵具、カンヴァス	80.8	53.3		
足立源一郎	エギュイ デュ ドリュ	1961	油絵具、カンヴァス	73.0	60.6		増田絵画修理工房
小野絵麻	蛙	1959	油絵具、メゾナイト	122.1	84.0		
小野絵麻	南無	1965	油絵具、カンヴァス	130.3	97.1		
加山西郎	カルティエ・ラタン	1933	油絵具、カンヴァス	80.5	99.8		
加山西郎	風景	1940	油絵具、カンヴァス	80.3	99.8		
木下晋	起つ	1963	クレヨン、ベニヤ板	114.0	88.0		
木下晋	火葬場の花	1965	油絵具、ベニヤ板	170.0	151.0		
木村忠太	夕陽	1982	油絵具、カンヴァス	130.0	162.0		
木村忠太	道沿い	1984	油絵具、カンヴァス	100.0	100.0		
小林徳三郎	鰯	1924	油絵具、カンヴァス	32.3	38.1		
塩川高敏	樹映	1986	油絵具、カンヴァス	193.7	162.3		
島崎鶴二	承徳暮山	1939	油絵具、板	37.6	45.5		
須田剋太	無題	1963	油絵具、石、カンヴァス	41.0	32.2		
中野淳	橋の記録	1963	油絵具、カンヴァス	194.0	131.0		
中野淳	失われゆく風景	1975	油絵具、カンヴァス	131.0	194.0		
兵藤和男	鏡のある静物	1948	油絵具、カンヴァス	91.5	117.0		
兵藤和男	赤い上衣の自画像	1987	油絵具、カンヴァス	60.8	45.8		
柳瀬正夢	静物(百合)	1936	油絵具、カンヴァス	22.7	35.1		
柳瀬正夢	山景	制作年不詳	油絵具、板	23.5	32.8		
萬鉄五郎	日傘の裸婦	1913	油絵具、カンヴァス	81.8	53.0		
素描・水彩画など							
飯田善國	彫刻のためのデッサン(1)	1968	サイン・ペン、鉛筆、紙	37.6	45.0		
飯田善國	彫刻のためのデッサン(2)	1968	サイン・ペン、鉛筆、紙	37.7	45.0		
飯田善國	彫刻のためのデッサン(3)	1968	サイン・ペン、鉛筆、紙	37.8	45.0		
飯田善國	彫刻のためのデッサン(4)	1968	サイン・ペン、鉛筆、紙	37.5	45.0		
飯田善國	彫刻のためのデッサン(5)	1969	サイン・ペン、鉛筆、紙	37.6	44.9		
互井開一	リスボン郊外	1960年代	水彩絵具、カンヴァス	33.3	45.5		増田絵画修理工房
中澤弘光	仏都寧楽 下図	1955	パステル、紙	47.4	31.5		
原精一	語らい	1940	水彩絵具、紙	49.0	108.3		
版画(西洋)							
ヤンセン、ホルスト	湿原の第一理論	1988	エッチング、アクアチント (2版2色刷り)、和紙	59.8/71.1	49.8/59.1		
版画(日本)							
加納光於	稻妻捕り L-No.21	1977	カラー・リトグラフ、紙	61.5	49.5		
菊池伶司	Finger Sample	1968	エッチング、アクアチント、紙	36.2/41.0	39.7/52.7		
菊池伶司	Finger Sample	1967	エッチング、紙	19.7/32.5	12.5/25.0		
小林冬ヶ	『雨月物語』扉	1970	エンゲーヴィング、エッチング、紙	17.6/42.7	23.0/32.6		
浜口陽三	3つのボプラ	1980	メゾチント、紙	62.8/75.8	48.0/56.7		
若林奮	『地方に於ける小気象』崖の凹	1977	ドライポイント、アルシユ紙	29.5/45.8	36.0/63.0		
写真・印刷物							
五島三子男	Dialogue.'96 雪・秋谷乗越	1996	デジタルプリント、紙	93.0	123.0		
五島三子男	Dialogue.'98 満水—明るみ	1998	デジタルプリント、紙	91.2	123.7		
彫刻・インスタレーション							
櫻井敏生	店員B	1974	黒御影石	27.0	24.0	28.0	
多田美波	時空	1980	ステンレス・スティール、結晶化ガラス	150.0	360.0	270.0	東京美術工芸社
松澤宥	不詳	1960年代	インク、鉛筆、紙、布	249.5	72.0		
渡辺豊重	SWING 86-01	1986	鉄、塗装、真鍮	250.0	220.0	50.0	
工芸							
ピカソ、パブロ	牧神の面	1947	テラコッタ、エナメル施釉	4.0	38.0	31.5	

美術館資料の保存と活用

長門佐季

近年、インターネットを介した情報共有、収集が急速に普及し、人々が多様な資料にアクセスする機会が飛躍的に増加している。また、新型コロナウイルス感染症の影響で美術館・博物館の施設の利用が制限された経験から、デジタル技術を活用した情報提供の必要性と効率性が広く認識されるようになった。こうした状況を踏まえ、2022年4月の博物館法改正では、2023年度から「博物館資料のデジタルアーカイブの作成と公開」が正式に博物館事業として位置づけられた。

美術館・博物館に求められる役割は以下の3点である。

- ・資料情報の保存と体系化
- ・調査研究成果を含む資料の公共化
- ・多様な創造的活動への資料の活用促進

当館は、2016年度の鎌倉館閉館を機に美術館資料を「建築資料」「展覧会資料」「イベント資料」「作家資料」の4つに整理し、「蓄積・収集」「整理・保存」「研究・活用」を活動の主軸とする「持続性のある開かれたアーカイブ」を目指して2017年度から美術館アーカイブ構築を開始し、2019年10月の鎌倉別館リニューアル時からデータベース公開を始めた。2021年度からは科研費（研究成果公開促進助成）を受けて作業を進めている。

2024年度の重点作業としては、「展覧会資料」である過去の展覧会の展示風景画像の登録・公開に取り組むとともに、2023年度に開催した「吉村弘 風景の音 音の風景」に関連するエフェメラ等の「作家資料」の整理と複写を行った。

2024年度は外部研究者によるアーカイブ資料の活用が活発であった。特別閲覧24件のうち主な調査内容としては、

- ・斎藤義重アーカイブ資料の調査
- ・上野誠旧蔵資料の調査

があげられる。

また、アーカイブ資料を活用した展示が多く見られた年であった。葉山館でのコレクション展「斎藤義重という起点—世界と交差する美術家たち」では、斎藤義重アーカイブの資料が多数紹介され、その公開によって研究者からの認知も高まった。このほか、鎌倉別館で開催した「ゴヤ版画『気まぐれ』『戦争の惨禍』／特集：スペインにいった現代日本版画展」、「てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」など、館内での資料紹介に加え、他館で開催される展覧会への資料の貸出件数も年々増えている。

なお、2024年度は新たに、羽太はつ子氏から受贈した久米民十郎旧蔵資料、中村慎太郎氏から受贈した若林奮闘連資料、三井弦氏から受贈した中澤弘光関連資料を収蔵した。

ここであらためて述べておきたいのは、デジタル情報は現物資料の代わりになるものではなく、あくまで現物資料を支える存在で

あるという点である。現物資料については適切な保管を徹底するとともに、デジタル情報についても将来にわたって価値を保てるよう配慮する必要がある。当館はこうした考えに基づき、今後もデータや画像の公開を進め、アーカイブ資料がより多くの研究に活用される環境づくりに努めていく方針である。

調査研究活動

調査・研究報告

江見絹子、1950年代後半の創作について —有機的形態を描く絵画と幾何学的抽象絵画の展開

糸山昌夫

2004年に神奈川県立近代美術館 鎌倉で開催した「江見絹子展 Retrospective EMI KINUO」は、文字どおりそれまでの江見絹子の画業を時系列で整理する最初の試みであった。同展に先立つ2003年12月の調査では、1954年2月に江見絹子の個展が行われたカリフォルニア州ソーサリートから返送され、防水紙に梱包されたままの巻きカンヴァス3点が確認された。そのうちの1点、江見が行動展の最高賞である行動美術賞を受賞した《むれ(2)}(1952年、神奈川県立近代美術館蔵)は、修復のうえ2004年の回顧展で公開された。この修復の経緯は、2024年の「鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復」展でも紹介された^(註1)。

2010年、姫路市立美術館の「現代郷土作家展 江見絹子展」では、別の巻きカンヴァス《夜の群像》(1951年、姫路市立美術館蔵)が修復、展示された。さらに1955年の「在仏日本人美術家協会展覧会」(以下「在仏展」)出品作品《Terre [土]}^(註2)(1955年、個人蔵、fig.1)なども公開され、1950年代の創作に新たな光が当てられた。2015年の画家逝去後、筆者は2018年9月から江見のアトリエおよび隣接倉庫に遺された全作品を調査し、1950年代の複数作品を新たに同定した。



fig.1 《土》1955年、油彩・カンヴァス、912×1171、個人蔵

そのひとつが1957年9月の「第12回行動展」出品作品《フォルム》(個人蔵、fig.2)であり、江見が幾何学的形態を初めて用いた抽象絵画である。江見が幾何学的抽象に本格的に取り組んだ時期は、1970年代以降を除けば1957年秋から翌58年末までに限られる。本稿ではこの約1年余に制作された作品群を「初期幾何学的抽象絵画」(以下「幾何学絵画」と定義する。その頂点を示すのが、《フォルム》とともに2018年10月に再発見した《断片》(1958年、個人蔵、fig.3)である。同作は2023年に修復され、同年末に銀座アートホールで開催された「江見絹子生誕100年—「いのち」華やぐ」展で65年ぶりに公開された。翌年には、神奈川県立近代美術館に寄託され、2025年11月15日に葉山館で開幕したコレクション展「没後10年 江見絹子展—1962年のヴェネチア・ビエンナーレ

レ出品作品を中心に—」に出品された。

一方、1955年2月のパリのオデオン画廊の個展出品作品《Terre nourricière [豊かな大地]}(1955年、所在不明、fig.4)などの作品以降、《フォルム》より前に制作された作品群は、幾何学絵画と対照的に「有機的な像を描く絵画」(以下、「有機的絵画」として整理できる)。

本稿の目的は、①有機的絵画、②幾何学絵画の展開を、近年の新同定作品の情報を補いながら辿ることである。併せて、2004年の展覧会図録の年譜編纂時に参照した資料の一部も紹介する。



fig.2 《フォルム》1957年、油彩・カンヴァス、1618×1117*、個人蔵
* 本稿執筆時、修復につき寸法は暫定



fig.4 《豊かな大地》写真、1955年頃、撮影:マルク・ヴォー



fig.3 《断片》1958年、油彩・カンヴァス、左 1628×1323、右 1629×1323、個人蔵



1. 有機的絵画の展開

江見はカリフォルニア州ソーサリートからニューヨークを経て、1954年春にパリを制作拠点とした。南欧旅行中に見たアルタミラ、ラスコーの洞窟壁画、および当時パリの画廊で活況を呈した抽象絵画の影響を受け、風景や裸婦といった従来の具象表現から徐々に離れていく。1955年2月、パリのオデオン画廊での個展を評して、批評家ルネ・カルヴァロは次のように述べた。

しかし、パリは彼女に簡潔化への意志を芽生えさせ、ますます余分を削ぎ落とし、現在ではキャンバスに本質だけを残している。例えば、地中海の大地に触発され、エジプトの浅浮彫を思わせるリズムを持つイエローオーカーの作品(表紙参照)などがある。^(註3)

同評が掲載された月刊誌『ラ・ルヴュ・モデルヌ』1955年4月号の表紙(fig.5)を江見の《豊かな大地》が飾る事実は、江見の個展がパリで一定の評価を得たことを物語る。記事の挿図からは

『Marchand de poissons, Île Madère [魚売り マデイラ島]』(1954年、個人蔵、fig.6) の出品も確認でき、この現存作品は寸法から1956年5月に新宿の風月堂ギャラリーで開かれた「江見絹子作品展」出品目録(fig.7)の「②魚うり(ポルトガル) (1954) 50P」に該当すると判断できる。

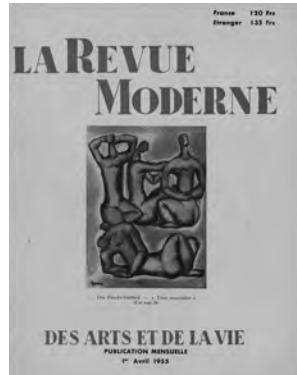


fig.5 『ラ・ル・ヴュ・モデルヌ』1955年4月1日、表紙



fig.6 『魚売り マデイラ島』1954年、油彩
カンヴァス、1162×810、個人蔵



fig.8 『精』写真、1955年頃、
撮影:マルク・ヴォー



fig.9 『コンポジションA』
1955年、木炭・チョーク
紙、786×517、個人蔵



fig.10 『アクション』写真、1955年頃、
撮影:マルク・ヴォー



fig.11 『アクション』小品、1955年、
油彩・厚紙ボード、457×380、
個人蔵



fig.12 無題、1954年頃、油彩・集積材ボード、
455×547、個人蔵

「第10回行動展」出品の『續く』(fig.13)と『繋る』(fig.14)は所在不明ながら絵はがきが残る。『土』を含む3点は、滯欧期の作品より非再現性、抽象性が高く、曲線主体でやや丸みを帯びた形象も見られる。

一方、1956年1月の村松画廊「江見絹子個展」出品作品『斗争』(個人蔵、fig.15)、『高潮』(所在不明、fig.16)、『王冠』(所在不明、fig.17)、『王者』(所在不明、fig.18)では、抽象化よりもデフォルメの先鋭化が進み、人物像や波がとげとげした鋭角的形態で描かれる。『高潮』では船を囲む高い波の重なりが認められる。絵はがきの照合より『斗争』は現存作品に同定でき、寸法から風月堂ギャラリー目録「⑪闘争 (1955) 30F」に該当する。瀬木慎一はこれらを「書のようなオートマティックな要素」を持つ「抽象



fig.13 第10回行動美術展『續く』
絵はがき、1955年



fig.14 第10回行動美術展『繋る』
絵はがき、1955年



fig.15 『斗争』1955年、油彩・カンヴァス、730×912、個人蔵

江見絹子作品展出品目録

5月1日～5月15日

① 土	(1954)	60F	⑩ 郡 惠	(1955)	20F
② 魚うり(ポルトガル)	(1954)	50P	⑪ 闘 争	(1955)	30F
③ 土	(1955)	50	⑫ だ す く	(1955)	10F
④ 精	(1955)	30	⑬ 燐	(1955)	6F
⑤ 土	(1955)	100M	⑭ 高 潤	(1956)	50M
⑥ 続 く	(1955)	100M	⑮ 王 冠	(1956)	8M
⑦ 繋 る	(1955)	100P	⑯ 王 者	(1956)	50P
⑧ 曙 む	(1955)	20F	⑰ 作 品 I	(1956)	50P
⑨ 流 ひ る	(1955)	20F	⑱ 作 品 II	(1956)	50P

fig.7 「江見絹子作品展出品目録」(部分)風月堂ギャラリー、1956年

続く1955年3月、パリのセルクル・ヴォルネで開催された「在仏展」の『土』と『Esprit [精]』(1955年、所在不明、fig.8)も、以前の写実的、再現的表現とは異なり、太い輪郭線に囲まれた、簡略化されデフォルメされた人物像が特徴的である。これらは風月堂ギャラリー目録の「③土 (1955) 50」と「④精 (1955) 30」に対応する。同様式の作品として、帰国の船中で木炭とチョークで紙に描いた『コンポジションA』(1955年、個人蔵、fig.9)に加えて^(註4)、『土』の中央に描かれた人物像に関連する『アクション』(1955年頃、所在不明、fig.10)の小品(1955年頃、個人蔵、fig.11)などが現存する^(註5)。また、1954年頃のパリ風景の写実的油彩画(個人蔵、fig.12)も新たに確認した。

1955年8月に帰国した江見は、翌月の「第10回行動展」に、『續く』、『繋る』、『土』を出品する。『土』と題する作品について整理すると、風月堂ギャラリー目録には、「①土 (1954) 60F」、「③土 (1955) 50」、「⑤土 (1955) 100M」の3点が記載される。在仏展の『土』の寸法(91.2×117.1cm, M50号)から③に、また、横浜美術館所蔵の『土』(1955年)の寸法(97.0×162.5cm)から⑤にそれぞれ比定できる。目録では⑤に続いて「⑥続く(1955) 100M」、「⑦繋る(1955) 100P」と並ぶことから、100号3点(⑤、⑥、⑦)が「第10回行動展」出品と考えるのが妥当である。実際、横浜美術館の片多裕子学芸員から、同館蔵の『土』の木枠裏に「1955 第10回行動展」との書き込みがある旨の情報提供を受けた。



fig.16 江見絹子個展《高潮》絵はがき、
松村画廊、1956年



fig.17 江見絹子個展
《王冠》絵はがき、
松村画廊、1956年



fig.18 江見絹子個展《王者》絵はがき、
松村画廊、1956年

絵画」に分類するが^(註6)、書的要素はすでに「在仏展」の《土》や《コンポジション A》にも認められる。他方、江見は《王者》について「[中略] ヨーロッパ十世紀までの生活感情や古代ギリシアに於ける芸術の黄金時代を現在の私が感覚したものを表現してみた」と説明するものの、同作を具象とも抽象とも規定していない^(註7)。

1956年5月の風月堂ギャラリー「江見絹子作品展」出品作品では、既述の②、③、⑤、⑪のほか、「⑨流れる(1955年)20F」／《流れ》(個人蔵、fig.19)、「⑩郷愁(1955年)20F」(個人蔵、fig.20)、「⑫だすく(1955)10F」／《ダスク》(個人蔵、fig.21)が現存する。「⑭《高潮》(1956年)50M」、「⑮《王冠》(1956年)8M」、「⑯《王者》(1956年)50P」は1月の松村画廊出品作品とみられる。「⑰《作品1》(1956年)50P」は、4月の「第11回行動美術春季展」出品作品《作品(1)}(所在不明、fig.22)に該当しよう。《作品(1)}には前年の「第10回行動展」出品作品に見た丸みを帯びた像と、村松画廊出品作品の鋭角的形態の双方が認められるが、優勢なのは前者であり、とりわけ画面上半分の形象—《王者》上辺の冠形を上下反転させて別の意味を与えたかのような形—は、その後の《生誕》、《いのち》、《陽》へ継承される。



fig.19 《流れ》1955年、油彩・カンヴァス、610×710、
個人蔵



fig.20 《郷愁》1955年、油彩・カンヴァス、
730×610、個人蔵

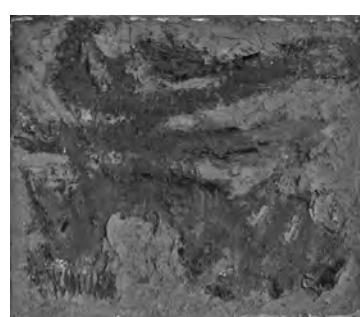


fig.21 《ダスク》1955年、油彩・カンヴァス、460×530、
個人蔵



fig.22 第11回行動美術春季展《作品(1)}
絵はがき、1956年

1956年11月、横浜市山手にアトリエが竣工し、長女の安奈が誕生する。新たな命を待ち望んだ江見は、6月の「第10回女流画家協会展」および8月に神奈川県立近代美術館で開催された「シェル美術新人賞展」に《生誕》(神奈川県立近代美術館蔵、fig.23)を出品し、後者でシェル美術賞(三等賞)を受賞した。《生誕》は曲線主体の丸みを帯びた像で構成され、とりわけ中央の褐色のふたつの像は胎児と胎盤を想起させる。《作品(1)}上半分の形象がここで象徴化を深めたと見ることができる。



fig.23 《生誕》1956年、油彩・カンヴァス、802×1167、神奈川県立近代美術館蔵

江見は、同年9月の「第11回行動展」に《陽》(所在不明、fig.24)と《いのち》(個人蔵、fig.25)という生命の誕生に相応しい題名の作品を出品した。いずれも中央に新しい命を表す像が描かれ、とくに《陽》は上方(母親の心臓)から光(血)が注ぐかのようである。題名や図像から窺えるのは、年初の村松画廊出品作品《斗争》や《高潮》が露わにする帰朝直後の画家の闘争心とは異なる、母としての慈しみ、母性である。第11回行動展会員作品集掲載の写真には、制作中の《いのち》の前で大きなお腹を抱え、満ち足りた表情で絵筆を握る江見と、夫アンリ・ガイヤールの姿が写る(fig.26)^(註8)。

翌1957年4月の「第12回行動美術春季展」出品作品《生》(所在不明、fig.27)でも中心に命の像が描かれるが、形はやや矩形化し、下辺からそれを下支えする形が伸びる。同年5月に村松画



fig.25 《いのち》1956年、油彩・カンヴァス、1128×1625、個人蔵



fig.24 第11回行動美術展《陽》
絵はがき、1956年



fig.26 《いのち》とガイヤール夫妻、
『11回行動美術ばれっと』19頁

廊で再度開催された「江見絹子個展」出品作品のうち、《信仰》（個人蔵、fig.28）が現存し、《張》（所在不明、fig.29）の絵はがきが残る。後者は変形カンヴァスで、孕みの膨らみを容易に想起させる。2010年に姫路市立美術館で公開された《傳説》（1957年、所在不明、fig.30）には、有機的な形に複数の矩形と直線が加わり、幾何学的展開の予兆を示している。



fig.28 《信仰》1957年、油彩・カンヴァス、1162×965、個人蔵



fig.27 第12回行動美術春季展《生》絵はがき、1957年



fig.30 《傳説》1957年、油彩・カンヴァス、730×610、所在不明



fig.29 江見絹子個展《張》絵はがき、松村画廊、1957年

2. 幾何学絵画の展開

江見絹子の幾何学絵画の嚆矢は、1957年9月の「第12回行動展」出品作品《フォルム》(fig.2)と「第13回ハマ展」出品作品《作品D2》(所在不明、fig.31)である。2018年10月の調査で確認した《フォルム》は木枠から外され、1枚のパネルに《いのち》、《断片》と重ね留めされていた。筆者は2004年の回顧展準備中に、江見から1950年代の多くの厚塗りの作品を1960年代初頭の作品の下地材料として再利用した——庭の池に浸してカンヴァスから剥いだ絵具を擂り、篩で粒度を揃えてテレピン油と混ぜて数日寝かし、イエローオーカー等を混ぜた——と聞いている。にもかかわらず、新たな命を主題に描いた《いのち》とともに、《フォルム》と《断片》を方法はともかく保管していた事実は、画家がこれらを画業上のひとつの転回点、到達点として自覚していたことを示している。



fig.31 第6回横浜文化祭
第13回ハマ展
《作品D2》
絵はがき、1957年

日本では1956年の日本橋高島屋の「世界・今日の美術展」や翌年のミシェル・タピエとジョルジュ・マチウの来日を契機に、いわゆる「アンフォルメル」ブームが起こる。しかし江見は、アンフォルメルの感情的、即興的筆致による「熱い抽象」ではなく、一般に「冷たい抽象」とされる幾何学的抽象へ進んだ。《フォルム》の創作過程については、江見が『美術手帖』1957年11月号で次のように述べている。

直接的に予定、計画を立てやった事ではなく、空白なキャンバスを一つの世界としてその構成を練る時、不安定なフォルムがカクカクと不安定な場所に配置されてゆく。不安定のなかの安定へと、バランスを保つべく何十回となくフォルムが置きかえられ、処理された空間に近づいてゆく。より簡潔なものへと目指しながら創作を進めたのではあるが…^(註9)

すなわち、画布上で直に形（フォルム）を反復配置し、調和と簡潔な空間構成を探る方法である。「カクカク」という擬態語から、当初から像は有機的というより矩形的であったと推測できる。

有機的な生命の像を描いていた江見が、なぜ幾何学絵画に向かったのか。この転換の背景を探る手がかりとして、「第12回行動展」作品集に掲載された江見自身の文章「具象表現について」を挙げることができる。ここで江見は、具象と抽象の関係を次のように考察している。

抽象と具象を制作上の方法論の相違とひとまず考えてみる事にする。ところで之等具象作品を厳密に云えばクラシックな形態をとる作品に於いてすらその最初の、全く最初の意図さえ従来のナチュラリズムからかなり遠ざかったものである事を発見する。まして社会的モティーフによるもの、或は造形主義、さまざまの形式による具象作品にはその構成に於て抽象に類似したものが多くみられ（抽象とは異なるものであるが）それらを抽象への歩みよりとするか、或は又それから引出されてゆく具象芸術の新しい世界への段階とするか、といった風な見方も出来るのではないだろうか。結局は、要は現代のリアリティの把握の一言に尽きるのではあるが。^(註10)

編集者は創立会員の小出卓二に「行動の抽象表現について」を、江見に「行動の具象表現について」を依頼した。しかし江見の思索は結果的に「抽象絵画の今後」へと向かい、具象か抽象かという区別を超えて現代の造形意識を問うものとなっている。また、この作品集の別頁には《フォルム》を前にした江見の写真が掲載されており、この最初の幾何学絵画は上掲の文章と同時期に制作されたとみてよいだろう。

それ以前の江見の作品は、有機的絵画にせよ、裸婦像や風景画にせよ、いずれも個人的経験や神話的主題を扱っていた。しかし《フォルム》では、そうした個の経験（神話の知識を与えたであろう読書などを含む）を意図的に退け、形そのものを通じて「現代のリアリティ」に迫ろうとしたのである。言い換えれば、江見はこの時期、思考の射程を私的経験から現代社会へと拡張するなかで、幾何学絵画に到達したといえる。江見にとって、この新たな造形言語は、高度経済成長期を迎える時代の精神にもふさわしい表現であったに違いない。

もっとも、個人的経験も「現代のリアリティ」の一部であるため、

両者はしばらく混在した。事実、《フォルム》下部には、《生誕》、《いのち》に見られた命の形の、角張りながらもその残響や、《生》の下支えする形が認められる。これは、1958年4月の銀座画廊「江見絹子個展」出品作品《作品D》（個人蔵、fig.32）にも受け継がれる。

銀座画廊出品作品は、案内はがきに江見が記した作品配置図（fig.33）から判明する（註11）。このうち、《作品D》と2010年に姫路市立美術館で公開された《象徴》（個人蔵、fig.34）のほか、《現象1》（個人蔵、fig.35）、《現象2》（個人蔵、fig.36）、《現象3》（個人蔵、fig.37）が現存する。さらに《表現》（所在不明、fig.38）と《はじめ》（所在不明、fig.39）は銀座画廊の絵はがき、《作品D2》

は「第13回ハマ展」の絵はがきから図様が知られる。

針生一郎は《象徴》を次のように評した。

表現的な要素がかなり抑えられ、矩形の色面や線によるメカニックな構成がめだっている。しかし、パレットナイフで叩きつけるように塗り上げる手法が、ますますはげしさを加えて、コラージュ風のつよい物質感のある構成とともに、エネルギーの充満した空間を作り上げている。この作品は二枚づきで、左右の対照やバランスをかなり意識している。（註12）

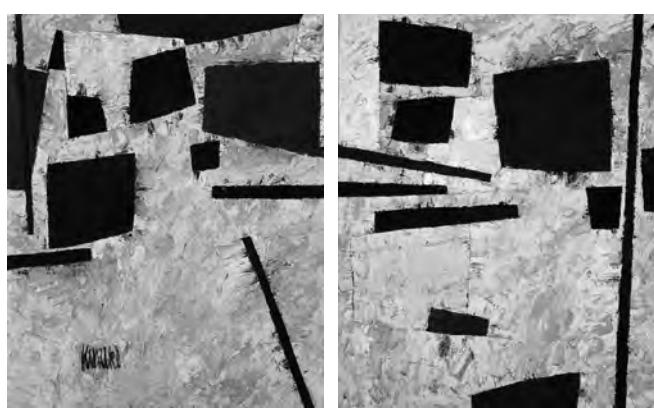


fig.34 《象徴》1958年、油彩・カンヴァス、左:1105×910、右:1105×912、個人蔵

2004年の展覧会図録で指摘した通り、この肯定的な評価にもかかわらず、江見は1958年7月の「第2回シェル美術賞展」で本作の左右を入れ替え、間隔を開けて展示したことが、会場写真から確認できる（fig.40）。

銀座画廊出品作品のうち、《現象3》、《表現》、《はじめ》は、複数の像が画面上に浮遊するのではなく、直線で相互に接続される比較的厳格な構成であり、《現象3》と《はじめ》では矩形の一部の輪郭に沿って直線が伸びる。出品歴不明の《作品Q》（1958年、



fig.32 《作品D》1958年、油彩・カンヴァス、605×732、個人蔵



fig.33 作品配置図、江見絹子個展案内はがき（表）、銀座画廊、1958年



fig.35 《現象1》1958年、油彩・カンヴァス、1085×483、個人蔵



fig.36 《現象2》1958年、油彩・カンヴァス、1090×464、個人蔵



fig.37 《現象3》1958年、油彩・カンヴァス、1100×483、個人蔵



fig.38 江見絹子個展《表現》絵はがき、銀座画廊、1958年



fig.39 江見絹子個展《はじめ》絵はがき、銀座画廊、1958年

個人蔵、fig.41）、6月の「第12回女流美術家協会展」出品作品《推移》（個人蔵、fig.42）、9月の「第13回行動展」出品作品《断片》では、直線それ自体が矩形の輪郭線となり、構成が一段と厳格化して、初期幾何学絵画の到達点に達している（註13）。ここで黒い直線は画面を断片化しつつ、縦横に結合して構造体を形成し、同年竣工のトラス構造の東京タワーや前川國男設計の晴海高層アパート（晴海団地15号館）など、高度経済成長黎明期の都市開発を連想させる。



fig.40 江見絹子と《象徴》、「第2回シェル美術賞展」会場写真、1958年



fig.41 《作品Q》1958年、油彩・カンヴァス、1110×805、個人蔵



fig.42 《推移》1958年、油彩・カンヴァス、1110×728、個人蔵

しかし翌1959年、江見は構築してきた幾何学絵画の解体、溶解に転じる。すでに前年の作品《表現》に関連して、江見は幾何学絵画の限界を認識していた。

〔前略〕個人的感情を主体とするものではない抽象絵画をより深く押し進めてゆきたいと感じ、考え練り、そうして出来上っていった作品に何らかのものが欠乏している事に私は気づき出した。簡単にいえば出来上ったものが何だか面白くないのである。〔中略〕個人的感情から起こる或種の感動や感情のもり上がった作品には（具象絵画に時折みられる）直接的に心にひびいてくる何ものかがある。この感動をもう一度分解したりその原因を探ってみたり、しなければならぬと痛切に私は考えてみた。

（註14）

1959年6月の「第13回女流美術家協会展」出品作品《始祖》（個人蔵、fig.44）が現存し、《踪跡》（所在不明、fig.45）の絵はがきが残る。両作品とも輪郭線が不明瞭となり、地と像の差が曖昧化する。9月の「第14回行動展」出品作品《みなもと》（所在不明、fig.46）では、線自体が地に埋没する。解体と溶解の過程で、画家は絵画の物質性という新たな課題に向き合うことになるが、これは別稿で論じる（註15）。



fig.44 《始祖》1959年、油彩・カンヴァス、905×725、個人蔵

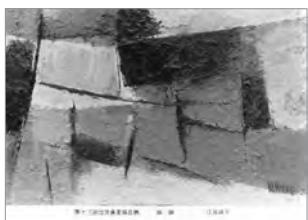


fig.45 第13回女流美術家協会展《踪跡》絵はがき、1959年



fig.46 第14回行動展《みなもと》絵はがき、1959年

註記

- 1) 修復の詳細は、伊藤由美「修復報告—油彩—」『神奈川県立近代美術館年報2003』（2005年、ノンブル無し）を参照。
- 2) 「」内は筆者による註。
- 3) Reneé Caravalho, "Galerie de L'Odeon, Emi Kinuko Gaillard" *La Revue Moderne*, (Avril, 1955), p. 26. 2004年の回顧展図録年譜には作品名などに誤記がある。《豊かな大地》や「在仏展」の《土》の写真裏面には、パリの写真家マルク・ヴォー（1903-1997）の印がある。
- 4) 《コンポジションA》も2010年に姫路市立美術館で公開された。
- 5) マルク・ヴォーによる《アクション》の写真裏面には「25号F アクション」と記されている。
- 6) 濑木慎一「美術時評③」『アトリエ』No.350、1956年4月、166-174頁。
- 7) 江見絹子「江見絹子「王者」」『美術手帖』No.107、1956年4月、89-90頁。
- 8) 江見奇奴女「酒絶ちで帰唱夫隨の筆強し」『11回行動美術 ばれっと』（行動美術第11回展員作品集）』行動美術協会、1956年、19-20頁。
- 9) 江見絹子「フォルム」『美術手帖』No.133、1957年11月、64頁。この文章は他の作家の解説とともに、岡本謙次郎と中原佑介の対談に挿入されている。岡本謙次郎、中原佑介「特集・秋季展覧会 対談1 一陽・二科・行動展評」『美術手帖』同上、54-69頁。中原「この作家は去年あたりから、いわゆる厚塗りをして、これまで非常に単純な線による有機的な作品だったのが、最近壁みたいに厚く塗って、あまりにも造形的な作品に変わったわけです。〔中略〕こんどは全体が建築みたいに既成の観念で計算されすぎて、おもしろさがなくなったように思う。」岡本「この人は器用な人でしょう、もともと。このあいだのうち【行動展】のは、その器用さがなんとなくもったりした形で出ていたでしょう。あれを明快に意識的に割り切ろうとして、こういう形が出てきたと思うのです。」例えば、江見の作品は1953年から極端な厚塗りであり、これらの批評は事実に基づいているとは言い難い。
- 10) 江見絹子「具象表現について」『第12回行動美術展 ばれっと』1957年、11-12頁。
- 11) 2004年図録の年譜には《現象1》が抜けている。
- 12) 針生一郎「江見絹子「象徴」」『美術手帖』No.142、1958年6月、136頁。
- 13) 《推移》とともに「第12回女流美術家協会展」出品作品で、毎日新聞社賞受賞作《徴》（所在不明、fig.43）では、直線は矩形を接続するのみで矩形の輪郭を構成しない。



fig.43 第12回女流画家協会展《徴》絵はがき、1958年

14) 江見絹子「「表現」について」『アトリエ』no.376、1958年6月、2頁（「3・4月の個展より」）。

15) 粕山昌夫「江見絹子、ヴェネチア・ビエンナーレへの道——1959-1962年の制作と神奈川県女流美術家協会」『没後10年 江見絹子—1962年のヴェネチア・ビエンナーレ出品作品を中心に— 略歴・出品リスト・解説』神奈川県立近代美術館、2025年、9-15頁。

結び

以上の検討から、1950年代後半の有機的絵画は、パリの美術動向や先史壁画との接触、さらに出産という個の経験と母性表現に深く支えられていたことが明らかである。一方、幾何学絵画の展開には、画家が自らの枠を超えて俯瞰的視座を獲得し、「現代のアリティ」に応答しようとする意志が背景にある。とりわけ後者は、中央画壇を横断する形で1961年に結成された神奈川県女流美術家協会への江見の中心的関与へと繋がり、のちに四大元素などを題材とする宇宙的世界観の形成に結び付いていった。

調査研究の発表・執筆等

1) 文献等の執筆数 (専門誌や年報などに掲載された学術論文)

糸山昌夫「渡辺千尋旧蔵のポーランド・ポスターのポーランド民主化前後の比較から窺えること—ミェチスワフ・グロフスキ、アンジェイ・ポンゴフスキ、ヴィクトル・サドフスキ、ヴィエスワフ・ヴァウクスキのポスターを資料として」『神奈川県立近代美術館 年報 2023 年度』2024年12月26日、pp.50-52

伊藤由美「神奈川県立近代美術館における保存修復 20 年の取り組み」『神奈川県立近代美術館 年報 2023 年度』2024年12月26日、pp.53-57

2) 図録等の執筆

西澤晴美「川を溢れさせるもの—内田あぐり展に寄せて」『内田あぐり—Fluxes』記録集、浜松市秋野不矩美術館、2024年6月、pp.48-50

朝木由香「連続する出会い—飯田善國・滯欧日記を中心に」「飯田善國 色は光、光はことば」展図録、2024年11月15日、足利市立美術館、pp.98-104

ほか7件 (pp.5-18 参照)

3) 雑誌・新聞等の寄稿

三本松倫代「横尾忠則（人間の記録）」「美術（海外／日本）」「ブリタニカ国際年鑑 2024 年版」ブリタニカ・ジャパン、2024年5月、pp.75-76, 179-180

三本松倫代「巡り礼う旅の追憶」『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』HeHe、2024年8月、pp.101-103

4) 専門的な講座

三本松倫代「月例講演会『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』との出会い」東京国立博物館、2024年8月17日

西澤晴美「吉田克朗展クロージングイベント『これからの吉田克朗』:連続対談+ラウンドテーブル」埼玉県立近代美術館、2024年9月23日

三本松倫代「クロストーク 西川勝人 静寂の響き」DIC 川村記念美術館、2024年10月12日

長門佐季「講座:世田谷美術館美術大学『美術と文学—神奈川ゆかりの作家を中心に』」世田谷美術館、2024年10月22日

朝木由香「飯田善國展開催記念鼎談:飯田さんの思い出」足利市立美術館、2024年11月16日

三本松倫代「Artists in FAS 2024 トークセッション」藤沢市アートスペース、2025年1月11日

外部資金の活用

1) 外部資金を活用した調査研究

「日本の抽象彫刻をめぐる批評基準の研究—近代美術館設立と展覧会の再考から」令和 6 年度科学研究費助成事業 (若手研究: 研究代表者 菊川亜騎)

「日欧シュルレアリスムの交流と共同制作の展開:瀧口修造とジュアン・ミロの書簡研究」令和 6 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 C: 研究代表者 朝木由香)

2) 外部資金を活用した展覧会・事業

「神奈川県立近代美術館アーカイブ事業」令和 6 年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費:代表者 長門佐季)
「紙本墨画 俵屋宗達《狗子図》保存修復事業」2024 年度文化財保存修復事業助成金 (公益財団法人三菱財団)

講師派遣・外部委員等就任

1) 講演会講師等派遣（当館主催の学校連携プログラム以外の講師等派遣）

実施日	会場	内容	主催／共催	派遣者
令和6年8月17日	東京国立博物館	月例講演会『内藤礼 生まれておいで 生きておいで』との出会い』講師	東京国立博物館	三本松倫代
令和6年9月16日	金沢卯辰山工芸工房	講評会講師	金沢卯辰山工芸工房	高嶋雄一郎
令和6年10月12日	DIC川村記念美術館	「クロストーク 西川勝人 静寂の響き」ゲスト	DIC川村記念美術館	三本松倫代
令和6年10月22日	世田谷美術館	「講座：世田谷美術館美術大学『美術と文学—神奈川ゆかりの作家を中心』」講師	世田谷美術館	長門佐季
令和6年11月16日	足利市立美術館(多目的ホール)	「飯田善國展 色は光、光はことば」展開催記念鼎談「飯田さんの思い出」登壇者	足利市立美術館	朝木由香
令和7年1月11日	藤沢市アートスペース	「Artists in FAS 2024 トークセッション」講師	藤沢市アートスペース	三本松倫代

2) 外部委員等就任

職員名	団体名	職名
長門佐季	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員
	神奈川県	神奈川文化賞審査準備委員会委員
	神奈川県美術展委員会委員	
	神奈川県女流美術家協会	審査員
	愛知県美術館	美術品収集委員会委員
	アーツ前橋	収蔵美術品専門委員
	宇都宮美術館	美術作品等収集評価委員
	川崎市岡本太郎美術館	川崎市文化芸術振興会議岡本太郎美術館部会委員
	川崎市市民ミュージアム	資料等評価懇談会委員
	世田谷美術館	世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	多摩美術大学	アドバイザリーボード
	東京都現代美術館	東京都現代美術館美術資料収蔵委員会評価部会委員
	奈良県立美術館	奈良県文化創造ギャザリング委員
	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
	宮城県美術館	宮城県美術館協議会美術品収集専門部会委員
	横須賀市美術館	美術品評価委員会
	横浜市	横浜市美術資料収集審査委員会委員
糸山昌夫	神奈川県	文化財保護ポスター第2次審査員
	鳥取県	鳥取県美術展覧会審査員(彫刻部門)
	平塚市美術館	平塚市美術館協議会委員
	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員
高嶋雄一郎	神奈川県	令和9年度全国高等学校総合体育大会シンボルマーク選考委員
三本松倫代	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
	藤沢市アートスペース	「Artists in FAS 2024」外部審査員
大原万季	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展 第一次審査員
林直央	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展 第一次審査員

運営・管理報告

概況

1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館（鎌倉館）
昭和41年3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年3月31日	学芸員室を増設
昭和49年8月1日	神奈川県立近代美術館組織規則（昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号）により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年7月28日	別館を開館
平成3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年7月5日	PFI事業契約の締結
平成15年6月1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館
平成28年3月31日	鎌倉館を閉館
平成28年12月22日	鎌倉館の建物を（宗）鶴岡八幡宮に譲渡
平成29年9月4日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和元年10月12日	鎌倉別館の改修工事完了による再開館
令和元年12月26日	葉山館を改修工事のため一時休館
令和2年4月11日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため鎌倉別館を臨時休館
令和2年6月9日	感染状況良化に伴い鎌倉別館を再開館
令和2年7月6日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和2年7月31日	葉山館の改修工事完了し再開館
令和3年1月12日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
令和3年3月23日	感染状況良化に伴い再開館
令和3年10月1日	鎌倉別館の改修工事が完了し再開館
令和5年5月8日	新型コロナウイルス感染症の5類変更に伴う通常開館の再開
令和6年10月1日	葉山館の改修工事のため、展示室休室
令和7年3月31日	葉山館の改修工事完了

2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

3) 施設の状況

令和7年3月31日現在

ア 土 地		面積
県 有	（葉山館分）	15,034.86m ²
※生涯学習課管理		
（鎌倉別館分）		4,937.00m ²
イ 建 物		延床面積
（鎌倉別館分）		1,902.93m ²
借 用	（葉山館分）	（有償分） 7,111.51m ²

PFI事業の概要

1) 事業内容

鎌倉の地における開館以来半世紀が経過する中で不足してきた機能を補うため、既設館と連携する新館を葉山町に建設し連携することで、これまでの高い企画力を受け継ぎ、展示・収蔵機能の充実など、生涯学習時代にふさわしい機能を備えた美術館を整備することとした。その整備に当たっては、PFI法に基づき事業者が新たに葉山町に新館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等整備業務を行うとともに、既設館についても維持管理業務を行うこととした。事業者は、平成15（2003）年4月に開始した維持管理業務・美術館支援業務が終了する30年後の令和15（2033）年3月末をもって県に施設を無償譲渡する。事業者の主な業務は次のとおり。

ア 葉山館建設業務：葉山館 新築工事、バスベイ・歩道整備工事など

イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理（修理を含む）、清掃、警備、受付・監視など

鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理（修理を含まない）、清掃、警備、受付・監視など

※鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。

ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設（レストラン、ミュージアムショップ、駐車場）運営

2) 事業者

株式会社モマ神奈川パートナーズ

所在地：横浜市西区みなとみらい2-2-1

収入・支出の状況

収入	令和6年度実績	
科目	金額(円)	内訳
教育総務費使用料	37,237	鎌倉別館電柱等 土地・建物使用料
社会教育費使用料	22,799,160	観覧料収入
社会教育費事業収入	4,758,917	図録等売払収入
社会教育費受講料収入	112,000	県立社会教育施設講座開催事業費
社会教育費立替収入	1,930,932	レストラン他光熱水費等
教育費雑入	24,120	図書館複写料金
計	29,662,366	

支出(人件費含まず)

科目	金額(円)	内訳
維持運営費	31,793,246	維持管理
美術館事業費	58,111,563	展覧会開催費、教育普及事業、調査研究事業
美術作品整備費	1,758,860	美術作品購入・修復
特定事業費	380,842,974	PFI事業費
県立社会教育施設公開講座事業費	262,929	
計	472,769,572	

※収入・支出とも近代美術館執行分のみ

葉山館改修工事報告

橋口由依

当館ではピクチャーレールを用いず、壁に固定金具を打ちつけて作品を展示している。展示替えの度にビス穴が増え壁の強度が低下していくため、開館から約20年が経過したことを機に、展示室壁の強度向上を図る改修工事を行うこととした。また、この工事期間にあわせて、展示ケース、レストラン、東屋などの修繕も行った。

2022年7月から改修工事の計画を立て始め、2024年10月から着工、2025年3月に工事を終えた。工事期間中は展示室内での展示を休止したが、来館者の安全が確保できない日を除き、庭園、美術図書室、レストラン、駐車場は利用可能とした。

1.展示室

・軀体壁

内側から順に合板、人造木材、ガラスクロスで構成され、白色塗料で塗装されている。今回の改修工事では、ガラスクロスを全て剥がした後、ビス穴の状況を確認し、ビス穴が集中的に存在する範囲の人造木材と合板を張り替えた。人造木材は全ての展示室で下端から1.0～2.0m、合板は最も天井が高い展示室3のみ1.1～2.8m、その他の展示室では1.1～2.0mの範囲を張り替えた。それ以外の部分のビス穴はカーボンファイバー入りのパテで充填して補強した。その後、ガラスクロスを張り替え、白色塗料で塗装し直した。エントランスの展示室入口付近、展示ロビー、レストコーナーの壁は、ガラスクロスの張り替えと塗装のみ行った。

・仮設壁

軀体壁と同様の材料で構成された仮設壁についても、ビス穴による強度低下が懸念されたため、全227枚のうち損傷が著しい77枚を選んで修繕を行った。

・床

目立つ傷がある場所のみ部分的に補修した。中庭に面した展示ロビー3の床は、外光の影響を受けて他よりも劣化が進行していたため、全面的に研磨し、クリア塗装を施した。また、窓ガラスのUVカット、断熱効果のある飛散防止フィルムを貼り換えた。

・展示ケース

大型、中型、平型の展示ケースについて、部品の交換、調整を行い、使用性と密閉性を改善した。あわせて汚れや傷のタッチアップ補修も行った。大型と平型の展示ケースは、ケース内の空気環境汚染を防止するため、既存の床板を有害なガスを放散しない仕様のピクチャープロテクトに交換し、ガラスフィルムも貼り換えた。中型展示ケースは既存の床板のままとしたが、クロスのみ大型、平型の新しい床板と同じものに変更した。

・ロールスクリーン

展示室3bの窓には、遮光のため、上下に分割されたブラインドシャッターとロールスクリーンが設置されている。その手前に、窓の全面を覆うロールスクリーンを新設し、窓を塞いだ時の室内の美観を向上させた。

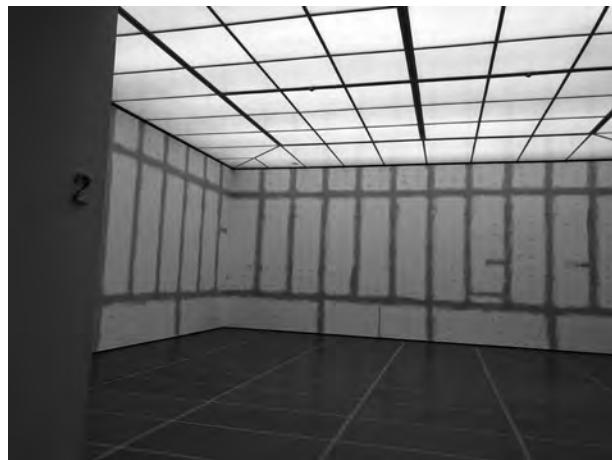
2.レストラン

窓から差し込む外光と経年により劣化したレストランの内装を改修した。変色した壁紙の張り替え、床の研磨、クリア塗装を行ったほか、テラス席のテーブルと椅子を塗装し直し、故障していたロールスクリーンを新調した。

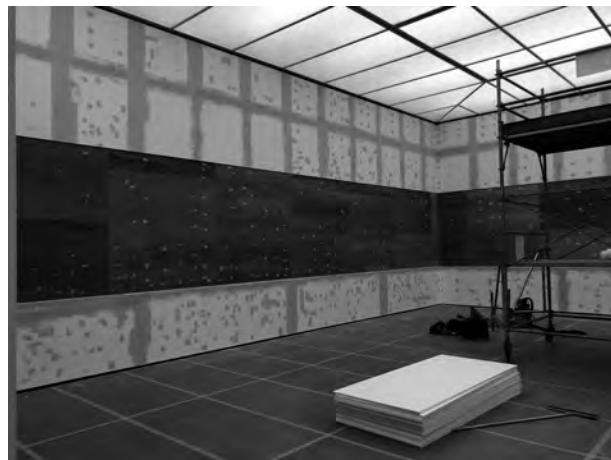
3.東屋

庭園内の経年劣化した東屋を修繕し、安全性を向上させた。塗装が剥がれて錆が生じていた屋根には遮熱塗装を施した。柱の根元は腐食していたため、接ぎ木をしたうえに銅板を巻いて補強した。ベンチは座面の部材を交換して傾きを修正した。さらに、木部を保護するため全面的に塗装した。

上述の改修した箇所のうち、展示室仮設壁と展示ケースは株式会社ハリマビステム、それ以外は戸田建設株式会社が作業を担当した。改修工事に携わった関係各位、工事にご理解、ご協力をいただいた皆様に深く感謝申し上げたい。



1. 展示室2 改設ガラスクロス撤去後



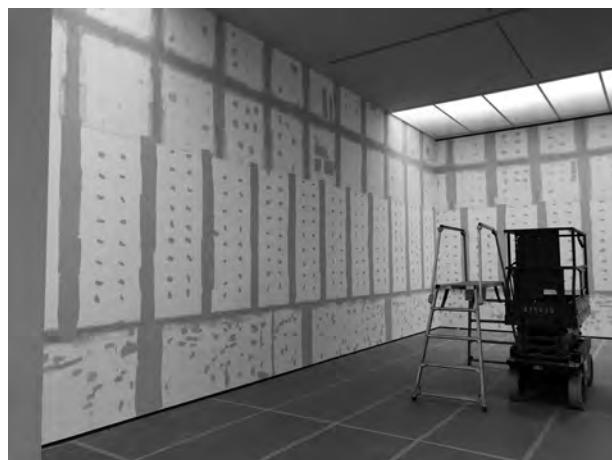
2. 展示室2 既設人工木材撤去後



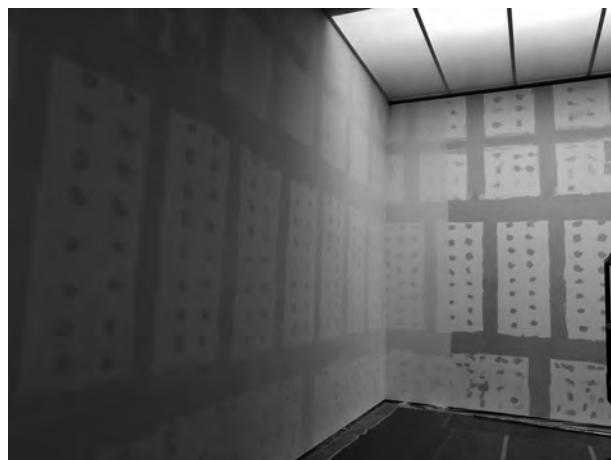
3. 展示室2 既設構造合板撤去後



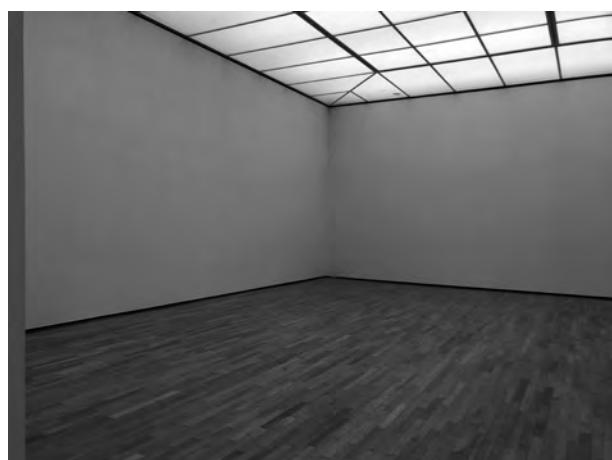
4. 展示室2 構造合板復旧後



5. 展示室2 人工材復旧後



6. 展示室2 ガラスクロス復旧中



7. 展示室2 改修後

関係法規

神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日

条例第6号

(最終改正)平成28年10月21日

条例第77号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならぬ。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を収めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

<略>

附則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

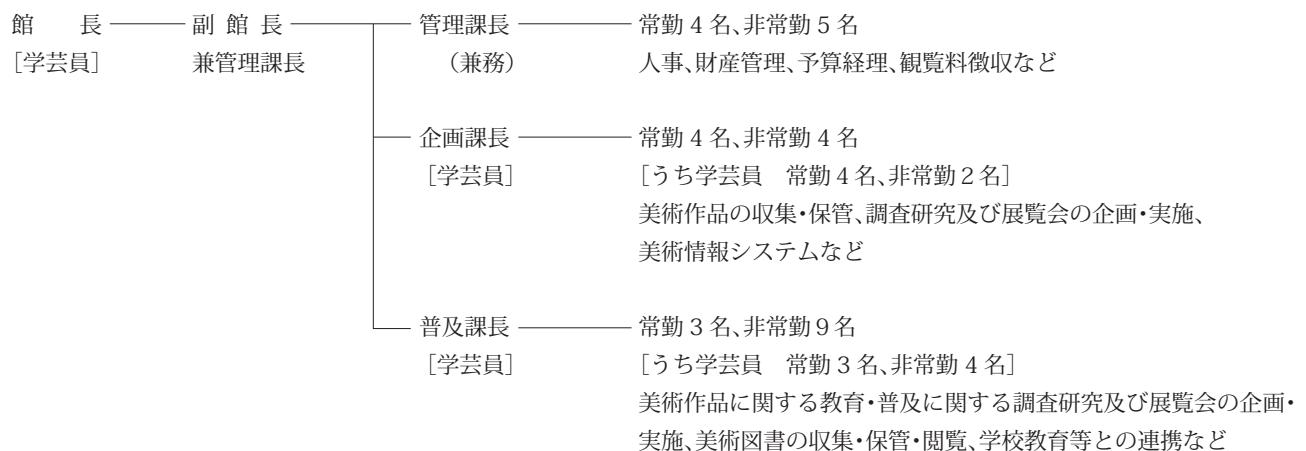
別表(第4条関係)

区分	個人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。令和7年3月31日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 33名

常勤 15名(再任用 1名、臨任 2名含む)、非常勤 18名(短時間勤務再任用 1名を含む)
[うち学芸員 常勤 10名(臨任 2名含む)、非常勤 6名]

館別配置状況

葉山館 常勤 12名(臨時任用 1名含む)、非常勤 14名(短時間勤務再任用 1名を含む)
[うち学芸員 常勤 7名、非常勤 5名]

鎌倉別館 常勤 3名(再任用 1名、臨時任用 1名含む)、非常勤 4名
[うち学芸員 常勤 2名(臨任 1名含む)、非常勤 2名]

職員一覧

館長 長門 佐季

副館長 高徳 浩二

管理課	課長(兼)	高徳 浩二
	主査	木村 賢介
	主任主事	藤堂 安規
	主事	菅野 宏介
	管理業務主任専門員	齋藤 基幸
	非常勤事務補助員	原田 裕子
	非常勤事務補助員	菊池 広美
	非常勤事務補助員	大平 容子
	非常勤事務補助員	伊藤 香織
	非常勤事務補助員	星野 美和子 2024(令和6)年5月31日まで
	非常勤事務補助員	濱田 純子 2024(令和6)年7月1日から

企画課	課長	高嶋 雄一郎
	学芸員	菊川 亜騎
	学芸員	橋口 由依
	臨時学芸員	朝木 由香
	臨時学芸員	引地 彩紗 2024(令和6)年10月1日から
	非常勤研究員	伊藤 由美
	非常勤学芸員	松尾 子水樹
	非常勤学芸員	武者 みづほ
	非常勤事務嘱託	本田 秀行

普及課	課長	糀山 昌夫
	主任学芸員	三本松 倫代
	主任学芸員	西澤 晴美
	学芸員	大原 万季
	非常勤学芸員	太田原 笠子
	非常勤学芸員	永井 慧彦
	非常勤学芸員	ハリントン角皆 萌仁香
	非常勤学芸員	林 直央 2025(令和7)年1月31日まで
	非常勤学芸員	加藤 優奈 2025(令和7)年2月1日から

〔美術図書室〕

図書業務専門員	鈴木 めぐみ
非常勤司書	阿部 尚子
非常勤司書	丸山 知美
非常勤司書	中村 瑞木
非常勤司書	坂口 薫

神奈川県立近代美術館

年報 2024(令和6)年度

発行日：2025年12月26日

編集：神奈川県立近代美術館

葉山館 〒240-0111 三浦郡葉山町一色 2208-1 電話 046-875-2800
鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-8-1 電話 0467-22-5000

デザイン：Tamatani Shuichi

印刷：光村印刷株式会社

ANNUAL REPORT 2024

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

December 26, 2025

Designed by Tamatani Shuichi

Printed by Mitsumura Printing Company Ltd.

© 2025 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

